處女の友

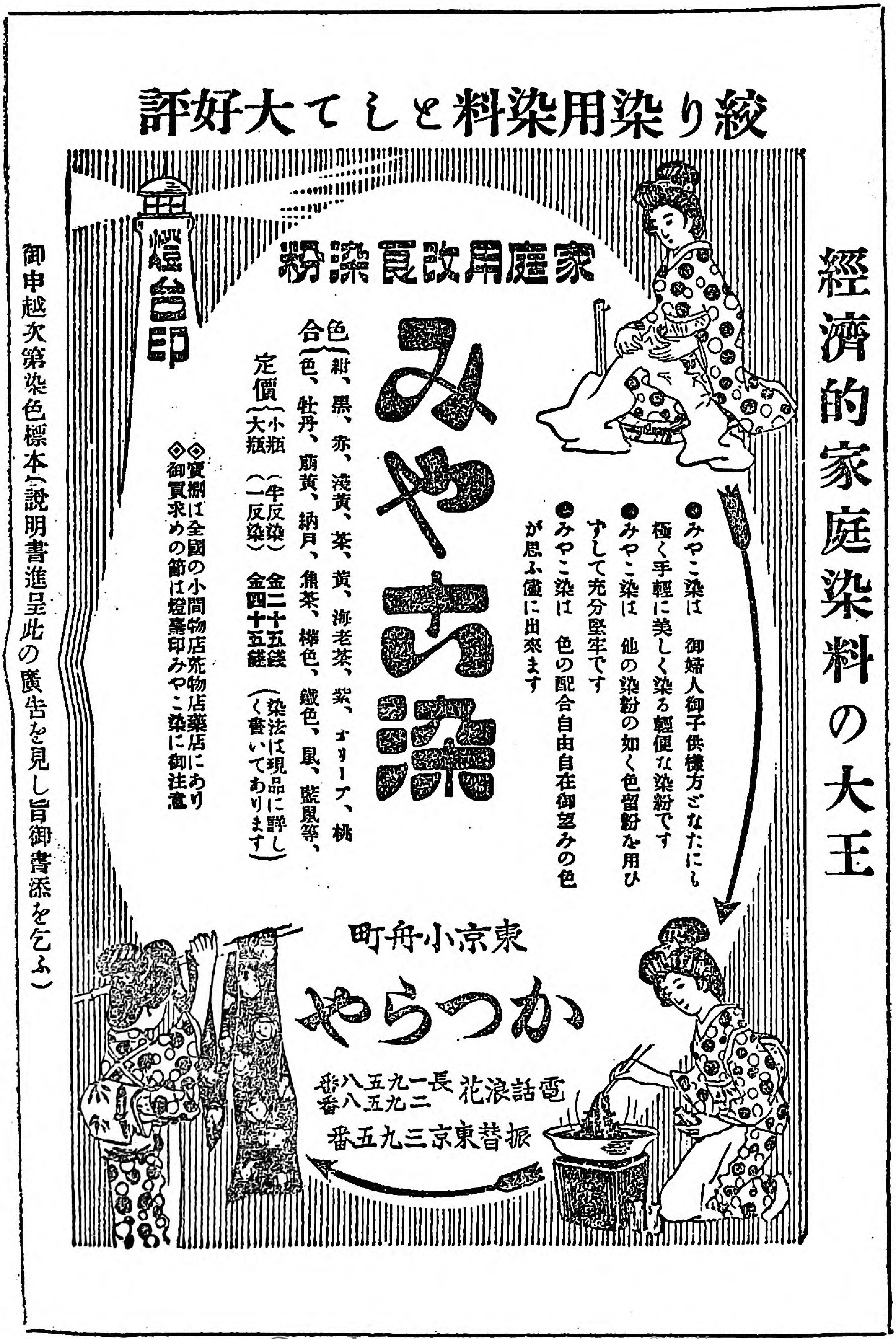
大正九年二月廿八日印刷納本　大正九年三月一日發行（毎月一回一日發行）大正七年十二月…第三種郵便物認可

三月

3巻3号

第三巻　處女會中央部發行　第三號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN


絞り染用染料として大好評
經濟的家庭染料の大王
燈台印
家庭用改良染粉
みやこ染
色合（紺、黒、赤、淺黄、茶、黄、海老茶、紫、オリーブ、桃色、牡丹、萌黄、納戸、鼡茶、樺色、鐵色、鼠、藍鼠等、
定價（小瓶（半反染）金二十五錢
大瓶（一反染）金四十五錢
（染法は現品に詳しく書いてあります）
◎實捌は全國の小間物店荒物店藥店にあり
◎御買求めの節は燈臺印みやこ染に御注意
御申越次第染色標本（説明書進呈此の廣告を見し旨御書添を乞ふ）
●みやこ染は　御婦人御子供樣方どなたにも極く手輕に美しく染る輕便な染粉です
●みやこ染は　他の染粉の如く色留粉を用ひずして充分堅牢です
●みやこ染は　色の配合自由自在御望みの色が思ふ儘に出來ます
東京小舟町
かつらや
電話浪花 長一九五八番 二九五八番
振替東京三九五番

○御註文の節は處女の友の廣告に據る旨御書添へを乞ふ

最新刊

新歸朝者 伯爵 二荒芳德著

改造物語

□四六判天金上製□
□紙數三百十餘頁□

□定價金貳圓□
□送料拾二錢□

著者はいふ……我等が改造の要諦……赤裸々の眞面目に立歸り……靜寂に……眞に自己自身の了解か出來なければ眞の改造は出來ませぬ。反動とか、猜疑とか、小さな自分の私利擁護とか、術氣や人氣とりとか、乃至は逆上した氣分が少しでもあつては眞の改造は出來ませぬ。と。以て著者の態度を知ることが出來ます。

本書は、華冑の偉才で新歸朝者たる著者が、個人・家庭・社會・國家を根本的に改造せんとする絶叫であつて、而も單なる理想論ではなく、大は文教院の設立より、小は一家の臺所のことまで、何れも直に實行し得べき實際的新案を提供したものであります。

其の附錄として添へたる歐洲紀行は、動亂の露西亞よりスカンデナビヤに、特に英・佛・瑞の旅行は、悉く自轉車旅行の詳記であるから路傍の老爺、田園の農夫、家庭の主婦兒女、教師、家主、官吏、軍人等、一木一石も躍如として紙上に活動し、其の地方的實情を遺憾なく發輝してをります。

東京市神田區南神保町二番地　白水社發行　振替東京一一九二二番　電話本局四二二三番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

處女の友

三月號 目次

第三卷 第三號

○表紙　夜なべ……田代紫光筆

○題字……跡見花蹊筆

○口繪　｛工場處女會發會式
　　　　「都にあこがれて」の爲めに活動せられたる牧野氏令孃

△記事

▽卷頭　ひなまつりと女のつとめ……一

▽若い娘がお嫁にゆかない相談……三

▽田舍を富ますは婦人の力　日本女子大學校長　麻生正藏……八

▽舊いならはしを打ち破れ　三輪田高等女學校教頭　三輪田元道……一一

▽東京は果してよい所か　陸軍主計監　大江玄壽……一四

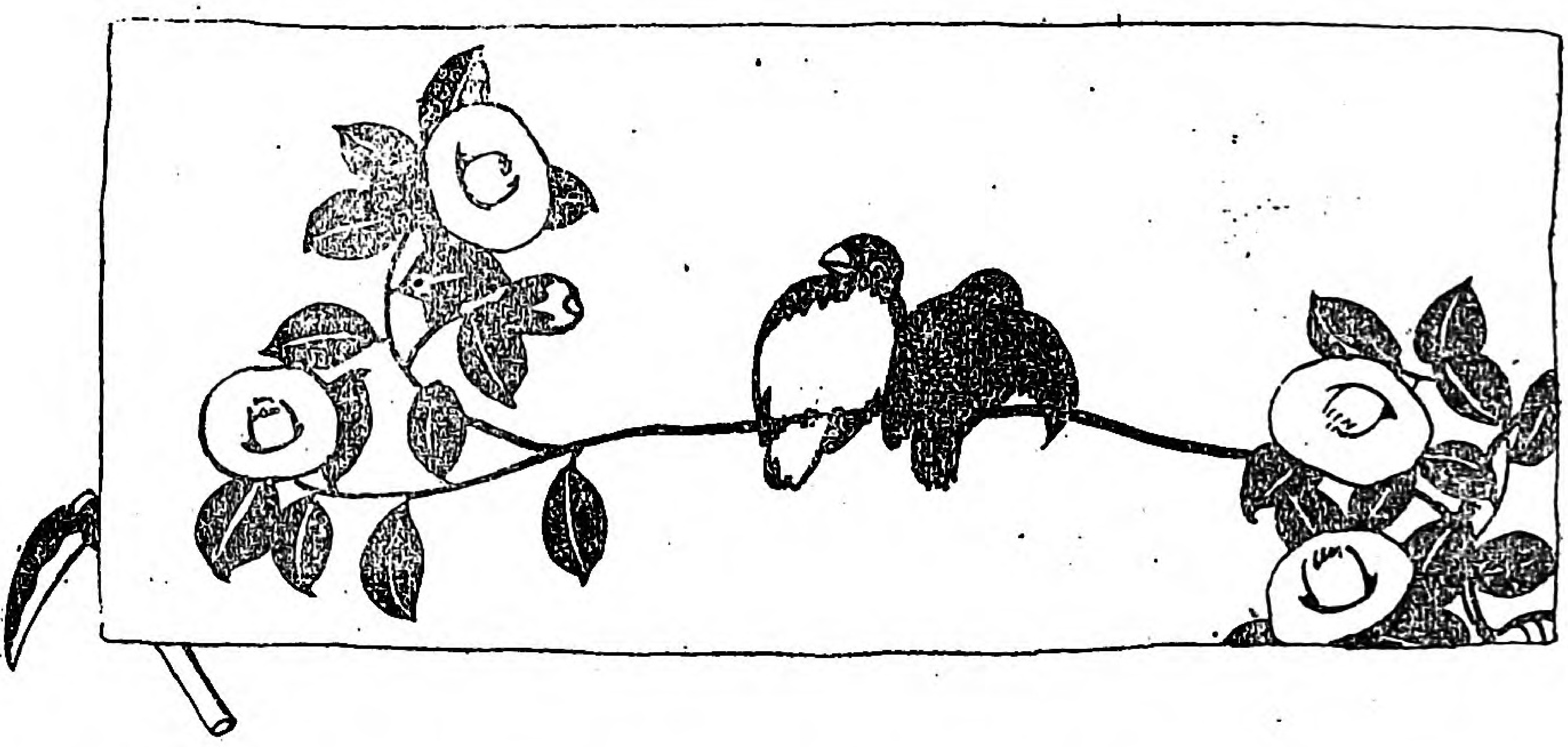
▽自分勝手をいはぬ事　理事　山脇房子……一八

▽情話　椿山の由來……花代……二〇

▽お氣の毒なきみさんへ……天野藤男……二三

▽桃の花……二七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



▽【新講談】描かれた娘（三）……天野雉彦……二九
▽【補習教育】風俗の改良……三三
▽日用文字展覧會……三五
▽【新曲】召集令……三六
▽孝女白菊の歌（其五）……三八
▽ゆり子よ……四〇
▽都にあこがれて（其六）……白雲生作……四二
▽私の村の處女會……四五
▽女の面白い統計……四七
▽處女會一覧（其六）……四八
▽「小草」より（二）……金澤甚衛……五〇
▽誌友くらぶ……五二
▽誌友名簿……五三
▽考へ物のこたへ……五四
▽文藝募集……五五
▽處女會だより……五六
▽編輯だより……五八

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○御註文の節は處女の友の廣告に據る旨御書添へを乞ふ

賜天覧 台覧

内務省囑託 天野藤男著

好評六版

指導經營 研究美績 青年團處女會

内容充實、趣味饒多 統計確實、識見卓拔

定價貳圓五拾錢 郵送料拾八錢

特色!!!!

青年團體及處女會の組織内容美績等正確なる材料を豐富なる觀察に基き趣味深き筆を以て從横に描出せるもので、青年團體處女會には一日も缺くべからざる座右の寶典である

十一版

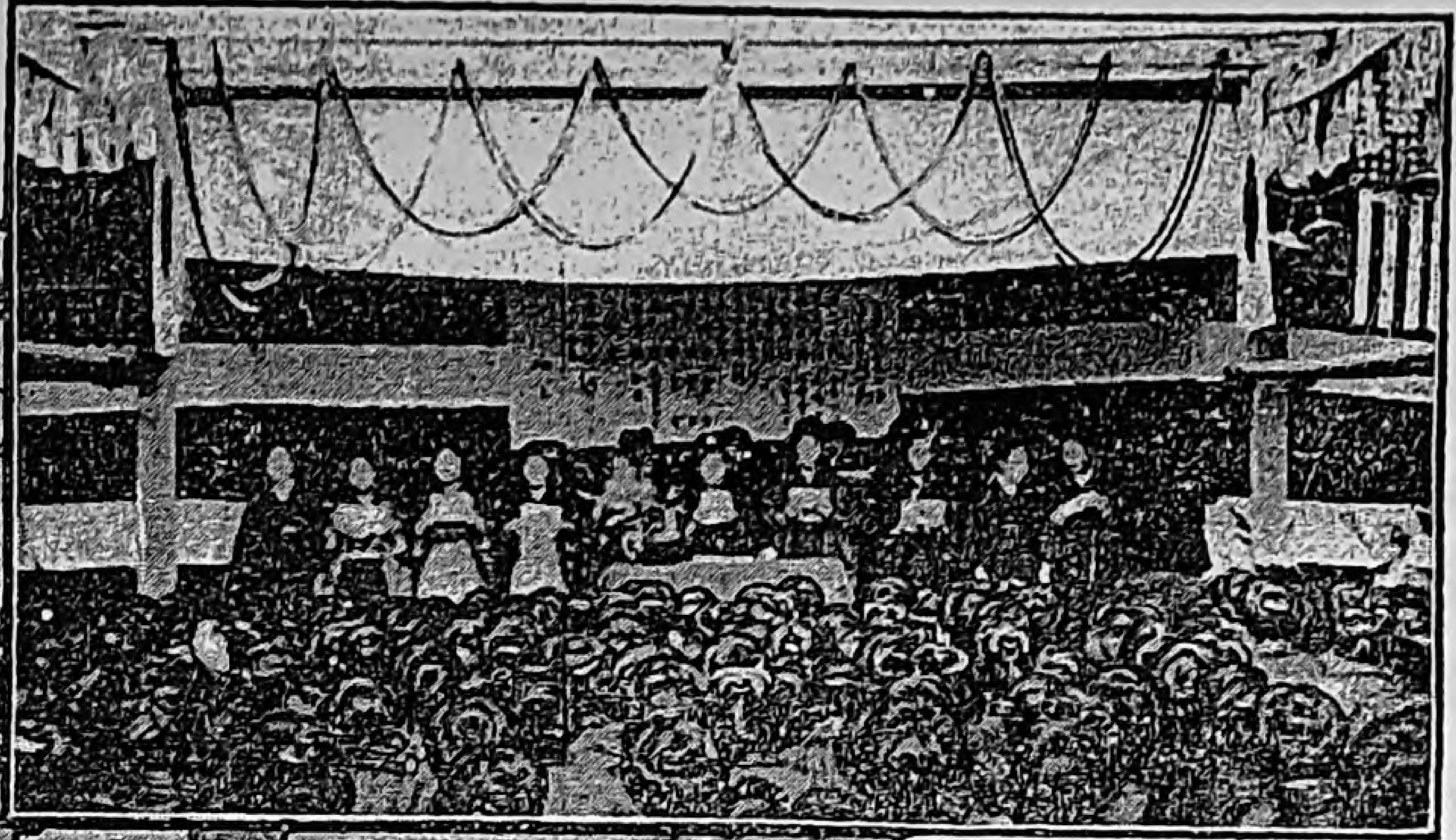
親愛なる農村青年へ

内務省囑託天野藤男著◎版を重ぬる十一版以て其の内容の如何を知るべし

四六版二百頁 定價六拾錢 郵送料六錢

東京市本郷區元町 丙辰出版社 振替東京三三三〇〇番

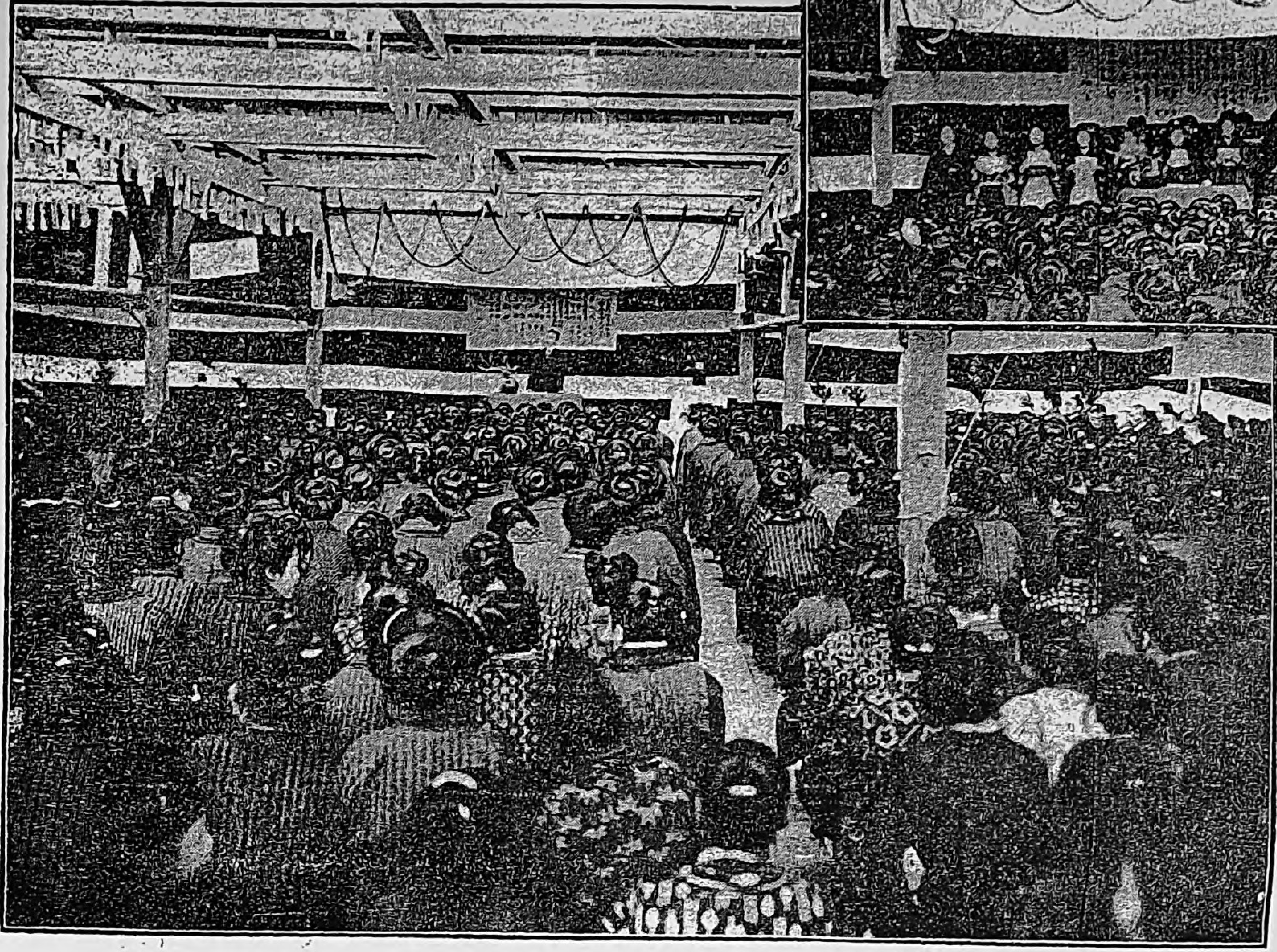
保土ヶ谷工場處女會發會式



工場處女會の歌合唱

富士瓦斯紡績の保土谷工場處女會の發會式のことは二月號にくわしくのつてゐます、是は會員が工場處女會の歌を歌つてゐるところであります、工女さん四千五百人の中四百人會員が出來ました、上品で活潑で希望にみち〳〵してゐます。「强くやさしくまじめに働く」工場の貴婦人です。

遠藤名譽會長の挨拶　左右の活花は會員がしました



（二月號記事をみること）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

牧野富榮さんと『お房さん』

牧野氏のお嬢さん

活動寫眞『都にあこがれて』の爲に牧野さんのお嬢さんが出演して下すつたことは皆様の御存知のことです。向つて右がお房さんになつた富榮さん、その次はゑみ子さん、三番目は、お君さんになつた靜子さん、一番左が靜岡の田舍娘になつた時子さんであります。御姉妹仲よく、そして親孝行でゐらつしやるさうです。

鎌をもつてゐるのは富榮さんのお房さんであります。髮の具合といひ、籠のせをひ方といひほんとうに御上手ではありませんか。

野の娘お房となつた富榮さん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女の友　三月號

ひなまつりと女のつとめ

三日はひなまつり、舊五節句の一つで主も、女の子のお祝ひ日なのです。桃の花もチラホラ咲き、野に山に春の氣分が動きそめます。ひなまつりに桃の花はつきもの、草餅に白酒もつきもの、みんな優しいものばかりです、みなさんは、ひなのように優しく、愛嬌があり、氣品高くお行儀よくならねばなりません。ひなまつりは、皆様に、こういふいろ〳〵の敎へを示して居ります。

五つ六つ位な女の子が、ひな人形を抱いて、頰ずりしたり、話しをしたり、着物をきせたりするところは、可愛ゆいものです。是は他日妻となつて子供を愛し育てるけいこなのです。

ひなのお節句に處女會の生れた地方も少くありません。またこのお節句に大會を開き、敬老會を開く地方も澤山あります。強く優しくまじめに働けといふ會訓の「優しい」心を養ふに一番よい日はこのひなまつり。どうかこの日を利用して下さい。少くともこの日一日は、ニコ〳〵してゐて下さい。ひなさんのように。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

若い娘がお嫁にゆかない相談

回お嫁にゆかぬとは何事

廣島縣の尾の道の柴原浦子さんは、土地の爲に働いて居られる熱心な方ですが、今度若い娘さん達の身の上を思ふあまり、不結婚同盟といふて、若い娘でお嫁にゆかない申し合せをする會をおつくりになつたさうです。結婚して妻となり、母となるとは女子の務めの一番となされて居ります、それなのに、若い娘がお嫁にゆかない申し合せをすることは、そも〳〵何事でせうか。

回人格、酒、花柳病

然しよく伺つてみますと、其は不思議でも何んでもなく、當り前のことなのです。つまりこれからの處女たちは、お嫁にゆき、又はお婿さんを取る時に、次のような男子とは、縁組しないやうにしようといふことなのです。

一　人格の卑しい人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

二　大酒のむ人
三　花柳病に罹つてゐる人

こういふ青年とは、結婚しない、たとへ親からせがまれても、親類からすゝめられても、キッパリ斷つてしまふようにしよう、然し娘一人だけの決心ではいざといふ場合に志が鈍るから、大勢して申し合せて、仲間をこしらへやうといふのが、尾の道の『お嫁のゆかない會』なのです。柴原さんがその主唱者で、もう大分大勢の會員があるとか聞いて居ります。

回合性や星まわりは古いこと

是は大變よいことだと思ひます。全體今までの結婚は、家と家、財産と財産との結婚で、本人同志の心のシックリと合つたといふ結婚は少くありました。年頃になると、兩親は固より親類の方がより〳〵相談して縁談がきまる。娘は赤い顔してハイと承知するばかりでした。お互に氣心もよく知り合はず、性質も趣味も深く知り合ひません。さうかと思ふと、自由結婚といふと名はよいが、親の承諾も得ないで勝手氣まゝに夫婦約束をしたりするものもあり、どちらも理想でありませんでした。

又相手の人物を調べるにも、只家のことばかり考へ本人の品性、病氣、趣味などについて、深く考へる人が少くありましたことは事實であります。その癖合性とか、星とか、年めぐりとかいふことには、馬鹿げた位心を入れました。五黄と六白がどうとか、三ッ違ひはどうしたのとか、猿の年と犬の年では喧嘩をするとか、そんナ迷信にのみ力を入れてゐました。

是からは、こんなことでなく、本人の人格、本人の健康、本人の血統、本人の趣味といふようなことについて、本人は固より父母も媒介人も心を用ひねばなりません。

回媒介にうそつき多し

故に柴原さんの擧げられた三ッの條件の一つにても叶つてゐるような青年との縁談には、キッパリお斷り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なさい。家の爲の嫁さんではない、夫の爲です、否自分の爲です、兩親がいかにすゝめても、首を横にふりなさい。その男が大地主の息子であつても、大商店の息子でも、又好男子でも、又どんなに學問があつてもキッパリとお斷りなさい。

其では、どうして其を調べるかと申しますと、是はなか〳〵むづかしいことなのです。昔から媒介といふ縁談の橋渡しをする人がありますが、是も一概には申されませぬが、まあ虚つきが多いのです。尤も騙さうといふのではないでせう、この女を世話しよう、この男に嫁をとらせようといふ考へがあるから、ほめていふのでせうが、其がツイ實物以上にほめすぎて、虚言となるのです俗に媒介口といふ位です。

一萬圓の身代ならば、五萬と申します。早稻田大學の卒業生が帝國大學となります。いつか軍曹を大尉だといつて娘をだました媒介もあります、ひどいのになると、大泥棒を紳士だといつてとりもち大問題となつたことがあります。食べ物なんぞなら、大したことはありません。『あすこの蕎麥が旨いといふから食べにいつたらまづかつた』で濟みませすが、一生夫となり、妻となる結婚に、かけねや虚いつはりは禁物です。是からは、正直な媒介でなければ、頼んではいけません口車に乘つてはいけません。夫となる人を調べる前に媒介を檢査する必要があります。

回よく人物を見ること

日本では、都會も田舍も青年男女が交際し會ふ機關がありませんから、本人同志が知り合ふことはむづかしいのです。さりとて、媒介が當てにならぬとすると是非とも、青年會長處女會長又は其の土地の智識あり人格ある人に調べて貰ふより方法はありません。將來青年會長處女會長はお嫁の世話、婿の肝煎までするのが、眞實の深切です、否その子、その孫のことにまで愛を持たねばなりません。

是から柴原さんの擧げられた三ヶ條について大體を申しますと、第一の人格といふことです。人格といふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

のは、早く言へば、その人の良心の現はれです。心が正しく、誠實で、物事に愛情を持ち、曲つたことのきらいな人は、人格の正しい人と考へてよろしいのです「孝は百行の基」親を大事にするか、どうかを調べてみるのも早道です。親を大事にするような青年はきつと妻をも愛します、又補習學校の成績、青年會の成績、軍隊に居つた人ならば、それらの成績をも調べなさい

次は大酒のみですが、流石に初婚の青年には、ソンな大酒のみはゐますまい。田舍の習慣として、お目出度い時に、少し位飲むのは、まあ今の所大目にみねばなりますまい。一滴でものむ人と結婚しないといふと、お婿さんは皆落第かもしれません。只二十歳位で、酒屋へ入り、料理屋へ入つてお酒をのむような青年は決してよい青年ではありません。全體皆樣は、いくつ位の青年が賴もしいと思ひますか、朝鮮は早婚が本で國が弱くなりました。男も女も決して急いではなりません、私どもは、女は二十歳前後、男は二十五歳位から三十二三歳位が結婚の適當の時と思ひます。ぼんやりしてお宮の祭りに太皷ばかり敲いてゐるような青年にめつたに一生を托してはなりません。近頃女がしつかりして來た爲に、結婚年齡が高くなつて來ました。誠によいことです。

大酒のみにつづいて注意せねばならぬのは、花柳病の青年です。純潔な娘がお嫁入りした爲に、夫から梅毒をうつされ可愛ゆい子供も出來ず、一生を淋しく送るといふような悲しい例は大變多いのでございます。全く男子の罪です。皆さんは、この點について十分注意を拂ひ、常に遊廓などに通ひ、居酒屋の女などと戯れるような青年とは、結婚しない樣にしなければなりません。少し位道樂する男でなければひらけてゐないサバケてゐない、働きがないなどいふ人もありますが何んといふ亂暴なことでせう。然し誰が花柳病に罹つてゐるか、なか〳〵わかりません。鼻の頭でも落つこちてゐれば、なるほどと思ひますが、紋付を着、洋服を着てゐて、きれいな顔してゐれば、外からはわからない。さりとて、『あなたわ梅毒ではありませんか』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

とは、きゝにくいのです。聞いても正直に言ひますまい。

そんならどうしますか。

回平塚明子さんの請願

日本の新らしい女として有名な平塚明子さんはこのことについて大變心配され、なんとかして、花柳病の青年と淸い娘と結婚が出來ないような法律をつくつて貰ひたい。そうして、これから奥さんになる若い娘の幸福を圖りたいと同志を語つてこんどの議會に請願書を出すことになりました。其は大體こういふことなのです。

女の車掌

東京の市街自動車の車掌さんです

一　花柳病にかゝつてゐる男子はお嫁さんが貰へないようにすること

二　お嫁を貰はうとする男は、相手の女に、私は「梅毒にも痳病にもかゝつて居りません」といふ醫者の證明書を示すこと

三　男が花梅病を内所にして結婚し、後でソレと解つた時には、すぐ離縁をすることが出來るようにすること

四　夫から病毒をうつされた妻は、離縁しても病氣が直るまでの療治代と、生活費をと夫から出させること

之を法律として民法の婚姻の規定の中に入れて貰ひたいといふのが、平塚さんたちの請願の主旨であります。私共もこの主旨は、大贊成であります。當り前のことです。どうして今までにこういふ運動が起らなか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つたかと不思議な位です、皆さんこゝにヱヘン〳〵と咳をする肺病患者がゐると想像しなさい。若しその人が、あなた方の前でワザと咳拂ひをしたらどうですか病氣をうつす不都合の人とて怒りませう。其と同じことです。みす〳〵病氣と知つてて、女に病毒をうつすといふことは、大罪人です。罪人は國家で罰を加へてもよい、結婚が出來ないなどは當り前です。

回青年會は女の爲です

然しよく考へてみますと、こうして結婚しても、その翌くる日から夫が道樂するようではなんにもなりません、平塚さんの請願は、男に注意を與へるには十分ですが、是だけでは安心が出來ません。又醫者の診斷書もあてにならぬのが多いのです。私はそれよりか男子そのものゝ改良が大事であらうと思ひます。法律が出來なくても品行を正しくし、妻を愛し、いたはる男子を養成することが根本です。「遊びにゆくな、」「道樂するな」と腰に鎖をつけて置くことは出來ますまい。何事も精神です。心です。

私共が多年青年會の方にも關係してゐますのは、一つには皆樣の爲です。青年會に依つてよい青年、立派な青年が澤山出來ますれば、花柳病の檢査をしなくとも自然と品行は正しくなります。大酒ものみますまい如何に皆樣が淸いまじめな娘となつても夫となるべき青年が、不まじめであるならば、どうします。又どんなに青年會が立派になつても男からいへば、是から生涯苦樂を共にしようといふ町村の娘が、不品行であつたり、贅澤であつたり、いゝおしやれであつたりしては、青年は悶へます。つまり兩方が伴つて發達してゆかねばなりません。青年會と處女會（婦人會）は未來の夫婦、廣い意味の許婚です。許婚が勝手に他の女と關係して、花柳病になつたりしてよいものでせうか。

然し今日の青年會はまだ〳〵、今の若い娘が全く安心が出來るほどに進んでゐません。眞夜中に大手をふつてひとりあるきが出來るほどに進んでゐません。其故にソレまでの間、柴原さんのような不結婚同盟をつくり處女會の會則中に加へて見もいゝでせう（あまの）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

田舍を富ますことは婦人の力

日本女子大學校々長 麻生正藏

お百姓と縁ある女學校

どんよりと曇つた冷めたい日でした。目白臺に麻生校長をお訪ねいたしまして、いろ／＼お話を伺ひました。御約束の時間に少し早うございましたので、玉成寮に寮監の須田様をお訪ね致しました。女子大學には構内に玉成寮、晩香寮、など澤山の寄宿舍がありまして、家族的に共同生活を致して居るのでございます。廣い庭にはいろ／＼の草花が植ゑられ、花の盛りはさぞ見事だらうと思ひます。野菜も作つてあります。女子大學といふと、ハイカラな學校のように思ひませうが、さうでなく極く質素な所であります。田舍から來て居られる生徒が多うございます。

それから校長にお目にかゝりました。見晴らしのよいお部屋に招せられ、いろ／＼お話しを伺ひました。

『私の學校では農といふことに重きを措いて居ります、どうしても是からは、農學の發達を圖り、地方の繁榮を期することに一番大事だらうと思ひます。農あつての商業であり、工業であるのです。農村が衰へて都會ばかり賑やかになるのは、お邦の爲でありません。野に居つて十分に文明を知り都會のことを知つて而も鍬鎌に親しむ農民が多くなつてこそ、地方は富み榮えるのであります。』

先生は久しい間歐羅巴、亞米利加にも視察に行つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

居られましたので和蘭丁抹あたりの農村の生活などをも例にひかれて、田園生活の尊いことを力説せられました。

よい母よい子供

『私の學校には農藝科を置いて生徒たちに力めて農事や園藝に親しませるようにして居ります。自然に觸れ野菜などを作つて居る間に、知らず〳〵心も清くけだかくなるものです。生徒も喜んでやつて居ります。ゆく〳〵は學校で田舍の處女會などのお世話をする婦人をも養成したいと考へて居ります』。

其から處女會についてもいろ〳〵お話を承りました。

『これからは婦人の時代であらうと思ひます。どうしても婦人にしつかりとして貰つてよい家庭をつくりよい子供を育てゝ貰ふようにしなければならぬと考へて居りますがいかゞでせう』

と申しますと、

『全くであります。昔は愛國心といひますと、支那から朝鮮を攻め立てゝ勝ち戰をすることのように考へて居りました。その次には露西亞を征めて領分でも殖やさう露西亞から攻められぬように用心せねばならぬといふようなことを愛國心とのみ考へて居りましたがもう時代が變りました。大戰爭も了へて世界の國々が戰爭をしないように申し合せまでいたしました。是からの愛國心は、世界の人達が互に清い正しい心を持ち合ひ注ぎ合つて自分の國は固より誰でもの仕分せの爲になるように、つまり人類の幸福と發達を圖る爲に、めい〳〵が勉め勵まねばなりません。其がほんとうの愛國心であります。その爲には先づ幸福な家庭をつくることが大事であります、幸福な家庭は、主もに母の力に依つて營まれます。仍で現在母であり又これから母となる人は責任が重いのであります。よい家庭からよい子供が生れ、よく育つことは、申すまでもないことです子供を立派に育て、人の爲に、お國の爲に役に立つようにする

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

こと、是がほんとうの愛國心、忠義といふものだらうと思ひます。兵士をつくるのみが忠義であり、戰死するのみが愛國であると考へたのは昔のことであります。』

其から處女會婦人會がよき女よき妻となる爲に地方に居つて修め働いてゐることを、大變たふといことゝ仰言いました。

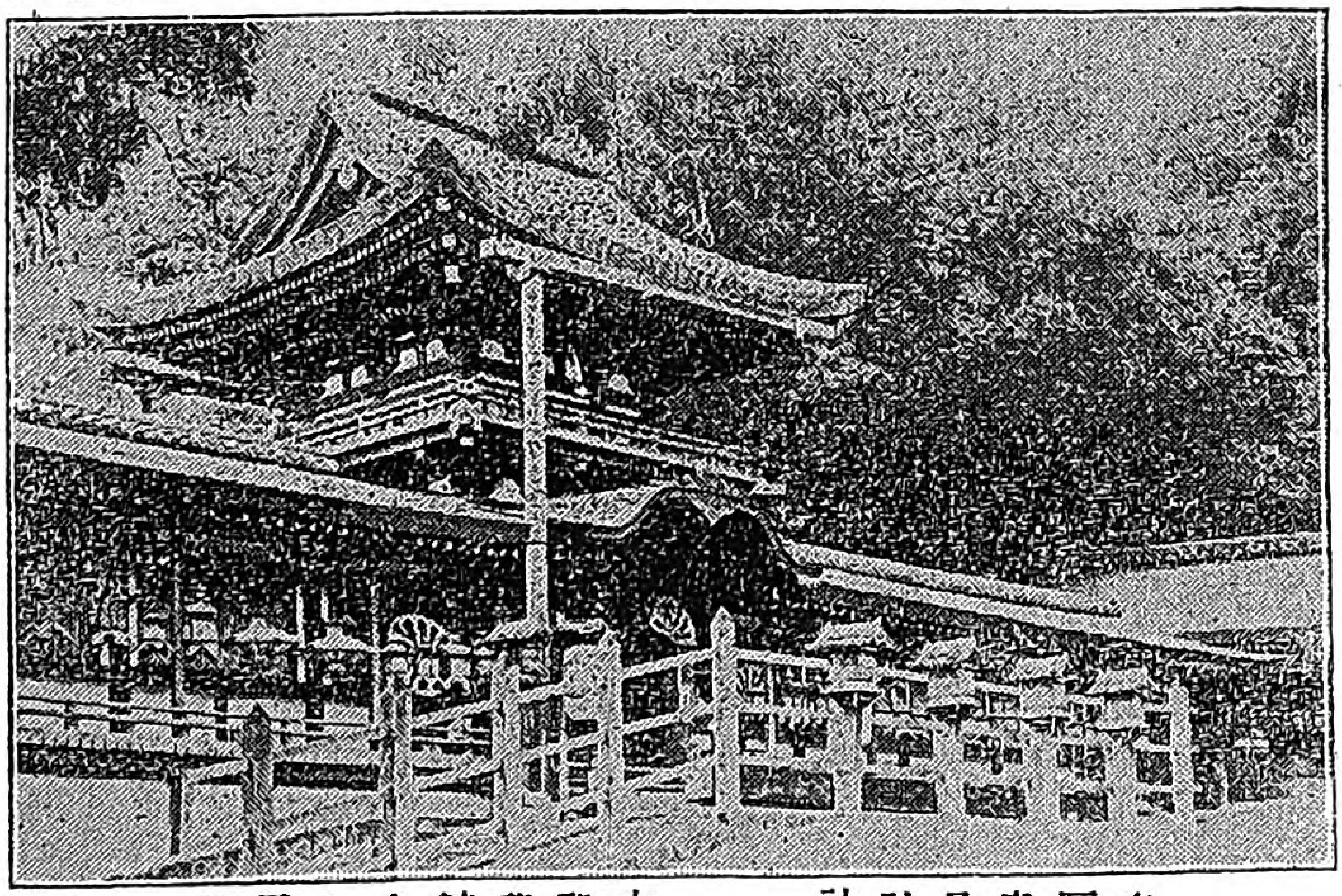
心を廣く持つこと

『是からの婦人は、見聞を弘め、智識をも增し、身體をも丈夫にせねばなりませんが、殊に大事なことは心を廣くもつて、大勢して仕事を一所にするといふことです。協同團結心の乏しいことは、日本人の惡るい特徵と言はれて居ますが、婦人にはさういふことが甚だしいと言はれて居ります、是は御婦人の罪でなく、永い間婦人が家の内ばかりに居つて世間のことを見聞きしなかつた爲であらうが是からは度量を廣くし嫉妬とか疑ひの心などを洗ひ去つて、自分を愛すと共に、人をも愛し人を容れるように修養せねばなりますまい。』

と誠に深切な御話しがありました。

東京にもいろ〳〵婦人の會がありますが、會のことに骨を折るより幹部の折り合の爲に氣を揉みいろ〳〵面倒になつてゐる會が多いさうです。是ではほんとうの仕事は出來ません、お互が心を廣く考へて高尚にすることが肝心であります。

尙農村改良と婦人についていろ〳〵お話を伺ひましたが、あまり長座となりますので、お暇致しました。



奈良春日神社　　大和花村まさ子寄

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

舊いならはしを打ち破れ

三輪田高等女學校敎頭　三輪田元道

回流行が習はしとなる

流行といふものは妙なもので人が流行をつくり、その流行が人に移つてゆく、この流行が永くつゞいて風俗となり習慣となると、なか／＼なほりにくいものである。よさうとすると、世間からいろ／＼言はれる、其が嫌さにやめないといふのが今日の有樣である。

然しもう大分世の中が變つて來たことであるから、昔の風俗習慣の中今の時勢に合はぬものは、どん／＼改めもし、又廢止するのが、世の中の進歩發達を促す所以である。こんど我々同志が生活改善同盟會をつくつたのは、一人の力ではこの實行が困難であるから大勢集つて規約に依つて實行を期し、風俗を改良し、生活の安定を圖らうといふのである。

回島田と勝山のわけ

風俗の恐ろしい力をもつてゐる實例は澤山ある御婦人の皆樣が結びなさる勝山といふ髪の結方は、あれはもとお女郎の名前で、勝山女郎が結つたので、其の名を取つたのである。島田といふのも賤業婦の名前である。其がいつとはなし流行り出し、しまひには風俗習慣となり、ハイカラの結ひ方となり、娘は一度結はなければならん位になつてしまつたとは、誠におどろくの外はない、良家の娘が女郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

の眞似をしなければならぬといふやうなことは、隨分妙なわけである。髪のことは二月號にも出て居つたと思ふが、是は上品で清潔であれば、何でもよろしい。なるべく自分で結つて金と時間とを省くがよろしいのである。

回立ち話ですませ

時間を正しく守らないのは、田舍の特長となつてゐる。是は仕事の關係にも因らうが、是からは、時間の價を知り、集會は固より、人を訪ねる時も、約束して待ち合せる時も、時間を正しく守つてお互に迷惑のかゝらぬようにしなければならぬ。五分か六分の立ち話で用のすむのに、まづまづといつて無理に人を座敷へ通して、先づ煙草盆をもつて來る。それからお茶を出す、お菓子を出す、其がまた甚だ時間をとる。何々禮式もよいが、そんな悠長の時代でない。精神さへ溢れてゐれば、流儀の形式は深く問ふを要しない。その中エヘンと咳拂ひして主人がやつて來るといふ有樣で忙しい人には座敷へ通されることがありがた迷惑である。

又處女會とか青年會とかはいつも後れて開會する。中には村長さんが來ない爲に待つてゐるといふ地方がある。小學校の式でも村の旦那は後れて來る、甚だよくないことで子供の頭に エライ人は後れて來るものだといふ考へをしみ込ませる。是からは、先づ會長や町村の重立つた人から時間を勵行せねばならない。

回十七萬圓と十七圓

結婚なんぞ　近來非常に贅澤になつて來て小農の娘一人に數千圓をかける地方が少くない、其だけ農村の人がお金持になつたのは、喜ばしいことであるが。然し粒々汗と血のたふといお金を、一生一度着るばかりの結婚衣裳なんぞに澤山かけるといふことは、是れ全く惡風惡俗である。結婚は一生一代の大禮であるからなるべく嚴肅に行ふべきではあるが、嚴肅は虚飾とは別物である。心持を嚴肅にすれば着物や食べ物は次で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ある、着物や簞笥にかける分を、頭の中に身體につけるべきである。

町では一層贅澤な結婚が多い、十七萬圓かけたといふ花嫁さんがある。私が女ならばまことに羨ましい次第である、然しよく考へてみると、一方には十七圓のお金にも困つてゐるといふ人が少くない。どちらが多いかといふと、困つてゐる人が多いのである。十七萬圓の花嫁さんの喜びの裏には、裏長屋に住んで簪一つも買へないで働いてゐる娘がゐる、是では面白くない、誰でもが、幸福を倶にするようにならねばほんとでない、私にも年頃の娘がある、やがてお嫁にやらねばならぬが、親として先づ胸に浮ぶのは嫁入の支度である。どうか少數の人のみ樂しんで多數の人が羨むさいふやうなことのないやうにしたいと思ふ。お金があるから勝手であるといふような金持は誠に社會觀念の乏しい人である。

回迷信の愚かさ

次は迷信であるが、地方などへ行と、殊に之が多くその爲に縁談が破れたり、仕事が捗取らなかつたりする例が少くない。迷信は日本だけでなく、西洋にもある。金曜日を忌み嫌ふなぞはその一例である。然し日本ほど多くない。日本には合性とか、何の年とか、方角とか、家相とかそんなことに頭を惱ます人が、立派な人の中にも少くない、先頃もある懇意の地方の中學校長がまじめで

『あなたは迷信が嫌ひだといふが、ほんとに申年でも結婚してもよいのですか、よければ實は自分の娘を今年嫁付けたいのだが』。

と聞いて來たには驚いた。十二支などは、符牒と同じことで豚の年でも、蝶の年でも犬でも羊でも、よい惡いがあつたものではない。申はさるに通じ、其の家を去るなどいふからことしは結婚がわるいなど考へるかも知れないが、そんな馬鹿々々しい話があるものでない。仍で私は本年の年賀狀には次のようにかいた。

あしきこと見ざる言はざる聞かざるの
　年と思へは善からざるなし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

東京は果してよい所か

陸軍主計官　大井玄壽

大久保余丁町に大江先生を御訪ねいたしますと、快よく應接間にお通し下さいました。美しい西洋間で壁にはミレーの晩鐘の額やらうるわしい花鳥の軸が飾られ、珍らしい置物も澤山ございます。女子高等師範學校教授の大江すみ子女史は、先生の奥様でゐらつしやいます、今日は教會にいらつしやつたといふことで、お目にかゝることが出來ませんでした。

玄壽先生は熱心な基督の信奉者で謹嚴な方でございまして、社會風教の爲に、勞働者の爲に、又地方青年男女の爲にも御盡くし下さいます。

お話は近頃喧しい勞働と資本とのことに移りました。

□こゝを田舎の娘に

『資本家と勞働者と力を協せて進でゆくとが一番大事である。只資本家に向つて矢鱈に食つてかゝるような様子が見えるが、其は心せねばならぬ。西洋と日本とは自ら國の有様が違ふのである。西洋そのまゝをもつて來て日本に當てはめようとするから困る。其よりは、勞働者の修養を圖ることが一番大事である。立派な品位ある勞働者を作ることが大事である』。

先生から聞きますと、この節の東京府本所あたりの勞働者は、賃銀の上つたのをよいしほにして、お酒を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

飲み、遊ぶものが多く、却つてその爲に家庭もよく治らないといふことであります。働く時間が短くなつても、餘計に遊んではなんにもなりません。書物を讀むとか、運動をするとかするようにしなければなりません。

其から地主と小作人についていろ〳〵お話しがありました。

地方の婦人に就てのお考へをお伺ひ致したいと申し上げますと。

『一番困りますのは、東京へゆけば、なんでも出來る東京が一番よいところといふ、浮いた考へをもつてゐることであります。そして深い考へもなく出て來てとりかへしのないことをする。深い學問をするのならば格別、さもなくばなるべく田舍に居つてまじめに仕事するがよい、東京で習つた大の字も田舍で習つた大の字も同じことです、却つて田舍で習つた大の字の方がもとでが入らなくて使ひ途が廣いといふものです、よくこゝを田舍の處女たちに知らして下さい。

其から田舍の生活は淋しい所もあるが、遠慮氣兼も少く一番根強いしつかりした所があるといふことについてお話しがありました。本誌の主張とよく合つてゐますので、誠に喜ばしくありました。

□困つた結婚式

『近頃田舍娘が贅澤になつたと申しますが如何お考へでございます』

『さういふ話しであります、時々地方の視察にも參りますが大分變つて來ました。生活もだん〳〵向上してゆくことは大事でありますが、贅澤になり、虛榮に流れることは禁物である。殊に結婚なんぞの衣裳を飾ることは、誠に無益なことで、もう時代後れであります、先頃もある知り合の結婚の樣子を聞きますと、尤もその家は土地でもよい方であるが交際が廣いので、披露を一度にするわけにゆかず、十二日つゞいて披露をしました。其の度毎に花嫁さんは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

代つた着物を着なければならないのださうです、いやはや馬鹿氣た沙汰であります。是からは着物よりも顏です身體です。』

と、生活改善のことについても、いろ〳〵面白いお話を伺ひました。農家の生活費のくわしい調べもございました、是は主もに女子師範の生徒が夏休みの際に調べたのをもと〻して表になされたのださうです。

お話は其からお酒のことに及びます。

『先生は禁酒をなすつてゐらつやると伺ひましたが』

『私はお酒をやめてから三十年になります。以前は隨分飲みました、軍人ですから飲まされましたのです、然も決心しましてからバツタリやめました。貯めた盃も德利もみんな他人にやつてしまひました。困ることには『でもまあけふは特別ですから一つ』とすゝめられることであります。意志の弱い人はその厚意に免じてツイ飲む、其がよくないのです、私はさういふ時に申します『私が折角飲むまいと誓つてゐるのに飲めと仰言るのは、私に操を破れと仰言るのと同じことです』こう申しますと盃を收めます、どうもこの酒位害のあるものはありませぬ。害のあることは皆知つてゐる。そして其がやめられぬのは何事でせう』

靜岡市淺間神社　（靜岡大林房子寄）

□葬式に酒をのむ惡い風

日本で飲むお酒が五億萬圓、お酒の爲につぶすお米が五百萬石、汗の結晶がとけてお酒となる、一盃二盃はよいが何合何升

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

と消えるに從つて喧嘩となり、亂暴となり、失敗となり、病氣となり、借金となり、時間からいつても經濟からいつても身體からいつてもこれほど害のあるものはない。百藥の長は同時に百毒の長であります。

『田舍でも大分お酒を飲みます。淋しい田舍では、之が何よりの樂しみともなつてゐます。然しなるべくは之に代る精神上の樂しみをもつようにして、お酒はだん〳〵よしたいものです。殊にお葬式の時のお酒をよしたいと思ひます、一家の悲しみ歎いてゐる時に、酒に醉ひ大聲あげるなどは、無禮千萬であります。勿論是は男子に限つたことであるが、これからは、婦人もなるべく臺所から酒をなくせるよう、主人に酒を飲ませぬように工風しなければならぬ。酒を盛つて慰めるのばかりが内助ではない、酒のみをやめさせることは一層大きな内助である。日本禁酒界の大立物の安藤太郎氏は、もと大酒呑であつたさうです、もう昔のこと安藤氏が外國の役人してゐる時、外國の酒は旨くないといふので、日本から正宗を取りよせました。大樽がつきました。安藤氏は喜んで樽開をしようとしますとその留守に、奥さんがその大樽の鏡を拔いてどん〳〵下水へお酒をこぼしてしまひました。この時は大變立腹なさつたさうですが、爾來一滴の酒も飲ます、遂に今日のような方になりました。』

尚先生のお話しに依ると、ある田舍では、葬式の時お酒の出し樣が惡いと、棺を埋める穴をよう掘らない掘つても岩があるなんぞと難癖をつけたものださうです。誠によろしくない陋習であります。酒の爲に働き酒の爲に慰められるといふような趣味の低いことでは人たるのねうちはありません。

亞米利加が禁酒したのは、女の働きにも依ります、日本の女もこういふ方面に力を注ぐようにならねばいけない。殊に處女會婦人會などでは、申し合せをして臺所同盟をつくつて、お酒を少くし、又お酒を用ひないようにしなければいけない、お酌しなければ出てゆけと云はれたら、出て行く丈の力と決心となければいけません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

自分勝手をいはぬ事

山脇高等女學校長
本會理事　山脇房子

□三つの大事な事

世の中の事は、三といふ數が基になつて居るのが多いやうに思はれます、心には知情意といひ、敎育には知育德育體育といひ、家には父と母と子とがあり、生活には衣と食と住とが必要であります。一晝夜の二十四時間も三つに分けて、八時間は働き、八時間は休み八時間は寢るのが至當だとなつて居りまして、八時間勞働など丶今更事新らしく言ひ立る必要はないのであります。

本誌の讀者方の中には、産業に從事して居られる方も多い樣ですが、産業は國を富ませる基ですから、益々盛に致さなければなりません。所で其の産業にはまで勞働と資本と智惠といふ三つが必要で、此の内の一つが缺けても、産業は榮えて行くわけに參りませんから、互に他の役目を尊重して、自分勝手の事ばかり言はないやうに致さなければなりません。

□春夏秋冬の自慢

お伽劇の中に、春、夏、秋、冬が、各々自分の自慢をする筋のがあります、春は、山々に霞がたなびいて、野山に綺麗な花が咲き滿ち、鳥は歌ひ、胡蝶は舞ふ、こんな好い時候が一年の中に又とあらうかと誇り、夏は、夕べ涼しい風に袂を吹かれて海邊をそゞろあるきする樂しさ、裏山の白百合の氣高い匂ひ、樹かげのハンモックに搖られる心地よさを自慢し、秋は又、龍田姫の織り成す紅葉の錦の美しさ、大切な稻の實のりおいしい木の實の成熟、靜な窓に修養の書を繙く嬉しさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

は春や夏の比でないと言ひ張り、冬は冬で、正月といふ一年中の一番樂しい折は私の領分、外には勇ましい凧のうなりや羽子の音が聞え、内には賑はしい歌留多遊びがある、一夜の中に世界を眞白な銀で卷んでしまやうな大仕事は、春でも秋でもようしまいと誇り、互に言ひ募つて果しもない折柄、神々しい女神が立ち現はれ、玉の御聲うるはしく、一年を四季に分けて、各々の者にその秀でた所を與へてあるのだから、孰れに優り劣りのあらう筈はない。此の後は左樣な愚かしい爭は止めて、各々一心に自分の本分を盡すがよいと諭され、一同成程と氣付いて、心得ちがひであつた事を詫びるといふ筋であります。

□資本と勞働

此のつまらないお伽劇にも、非常に大きな敎訓が含まれて居ります、前申した通り、事業には資本と勞働と知恵が、必要ですけれども、資本家が、もし資本がなければ事業は出來ぬでないかと威張り、勞働者は勞働者で、イヤ幾ら資本があつても我々が働かなかつたら事業は出來ない筈だと言ひ張り、知恵者は又知恵者で、イヤ〱幾百萬圓の資本があつても、幾千百人の勞働者があつても、之をうまく運轉する經營者指導者がなかつたならば、資本は浪費せられ、勞働は無駄骨折になつてしまふと、各々自分達の長所ばかりを言ひ張つて、他の人の役目を考へなかつたら如何でせう、三つ足の鼎の一本缺けたら顚覆するのと同じやうに、事業は崩れてしまふ外ありますまい。

□双方の利益の爲に

さうなつてはお互に損ですから、勞働者は勞働者であまり骨身を惜んだり、賃金をねだつたりしないで、陰日向なく働き、働くのが自分の分だと思つて事業の爲めになるやう努め、資本家は資本家で、勞働者がよく働いてくれゝばこそ利益もあるのだと感謝して、利益は成るべく平等に分配し、勞働者の境遇に同情して彼等の將來の爲めになるやう親切にせねばなりません

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

諸國情話

處女哀話

椿山の由來

椿山のふもとにて　石井花代

一、ふとみそめた娘

私の里は東北の片田舍でありますが村に椿山といふ小高い山があります。その名のように滿山みな椿で昨日今日は眞赤に咲き亂れて、何んとも言へぬ趣でございます。この椿山には、哀れに悲しい由來があるのでございます。

昔溫い島國から一人の若い旅人が私の村に參りまして農家の娘を見染ました。娘はきれいと上品な顏と心の持ち主でした。旅人も男らしく柔和な若人でありました。然し會ふは別れのはじめとか二人の間に別れをしなければならぬ悲しい日がめぐつて來ましたのでございます。

二、月夜の別れ

其はある月の美しい宵でした。二人は名殘を惜みながら村境まで睦しさうに語らひ、小高い丘に上りました。

『お別れがつらうございます』

と月に背いていふ女が言へば

『其はたがひのこと、けれどまた來ん日もあるべければ、心强う』

と語り合ふ二人の眼には露が光つてゐました。

『きつと〳〵來年の春には訪れてたべ』

女が泣き崩れながら袂をひいていへば

『かくまで契りしおん身なるに、などてか僞りをいふべき、わが里は椿の名所ゆゑ、椿の實あまた携へておん身に進せん、椿の油つくりて、その長き髮を梳り尚美しうなつてたべ』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

『では、その日を待ちまする。』

『寒さ暑さに心して』

『あなたこそ旅の恙を心して』

盡きぬ名殘を惜みながら南の國の旅人は、山を下りました。その旅人の姿が小さくなるまで、丘の上に見送つてゐた人の顏は、青白くありました。

三、戀れた女の心は

月日に關守なく、その年は暮れて、春から夏へ、夏から秋へ、また雁の渡る頃となりました。南の國の若人を戀ふ人にとつて永い〳〵一年でありました。

去年の春の樂かつた思出を胸に浮べながら、乙女は若人の訪れて來る日を、今日か明日かと待ち戀がれました。淋しい中にも、望みをもつた乙女の頰は輝いてみえました。空を仰ぐと月が冴えて雁が渡ります。あゝこのような宵であつたと乙女はふら〳〵と家を出てあの村境の丘に上りました。そうして若しやとはるかあなたの街道を見守つては、いつまでも〳〵深い思ひに沈むのでした。

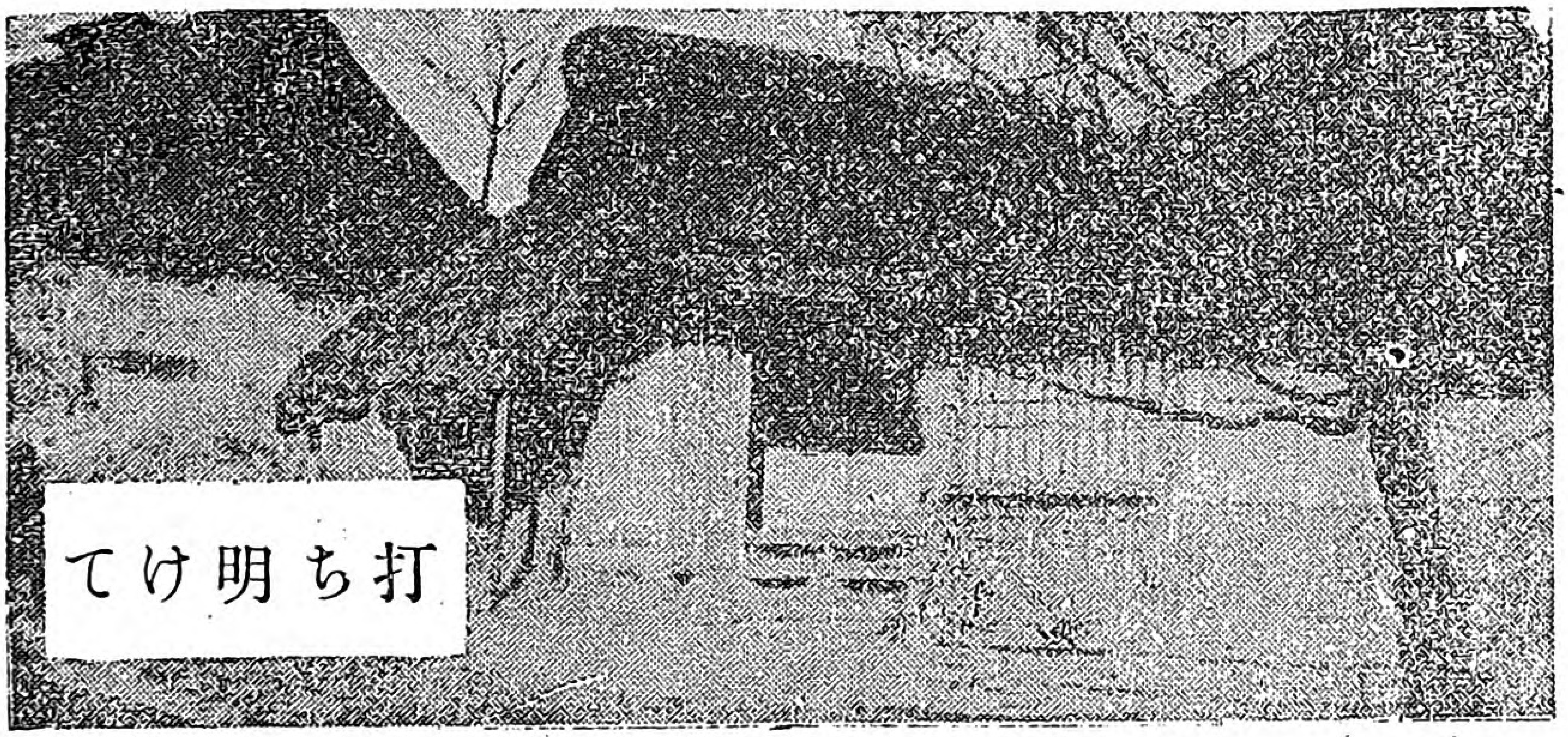
一日二日と流れる水のように日は移り、雁は日ごと夜ごとに渡れど待つ人の姿は見えません。乙女の頰は日に〳〵やつれ、もの言はず泣きしほれて暮らす日も多くなりました。また月の出る頃となりました。村境の小山に立つて思ひに沈む乙女の姿をみて哀れに思はぬ村人はありませんでした。

四、旅人のなげき

一年あまりの思ひがやう〳〵叶つたけふの嬉しさを胸に描いて村に入つた旅人の顏は希望に燃えてゐました。

旅人の姿は、とある藁家の門に消えました、が程經て、出て來ました人の顏は青く、身體は顫えてゐました。旅人はふら〳〵と野道を駈けて小高い丘の石段を登つて轉ぶやうにお寺の墓地にかけてゆき、まだ新らしい位牌を懷いて泣き崩れるのでした。その懷からころ〳〵とこぼれ落ちた椿の實がやがて芽を吹きとうとう滿山の椿となつたのでございます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



お氣の毒なきみさんへ

天野藤男

きみさんは、靜岡の田舍の處女會員でしたが、お家の都合からして、今は東京に奉公して居ります。お父さんには、三つの時死に別れ、お母さんはお宅に居りません。永く祖父の許で育ちました。いろ〳〵氣の毒なお家の事情らしい。先日こういふお便りが來た。

◎きみさんからの便り

『先日はお寒いのに、お出で下さいまして、ありがたうございます。（中略）奥樣もまだお產は今月の中頃ださうです。御主人も大變可愛がつて下さいますし、奥さんも私を女中でないように愛して下さいます。唯、御隱居さんは、お年よりですが、やかましいのですよ。今までの私の苦心はどれだけかわかりません。

◇毎夜床の中で泣き◇

臺所で泣き、お米をとぎながら故鄕を眺めては泣きくづれて居ります。も

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

う月日は早いもので、最早六ケ月目になりました。主人に仕へる身、たとひいやなお隱居さんでも、良く仕へなければなりません。御隱居さんは、私に奥さんのことを罵り、奥さんは、御隱居さんのことを罵り、私はもうどうして良いやらわかりませんですけれど、愛して下さる奥さんの前、どうしても私は、たとひ

◇火の中水の中でも◇

四月までは心棒して居る心でございます。奥さんも嫁にゆくまでお前が居れば、相當の軍人なり、外の者なりの所へお世話して下さるとの御事ですが、私はもう心が色々になつてわからなくなつてしまひます。お子供のことにつきましても、誠に可愛相な所もありますから、家庭が仲々圓滿にゆかないのですよ。ときに先生甚だ恐れ入りますが、女醫の〇〇先生のお話がありましたが、奥さんも看護婦等になるより醫者になつた方がよいなど丶仰言るのですよ。ですから私も其の方が良くはないかと思つて居ります。先生如何でございます。神と〇〇〇〇〇〇する先生にお願ひ申上ます。若しその方がよろしうございましたら是非〇〇先生のお弟子になられませうか、一寸お聞き下さいませ唯他人の先生にこんな色々お世話になつて誠に申譯がございません。寒さもいとはず御出で下すつた御情心御主人も實に御感じになつてゐらつしやいます。御恩は一生(中略)御奉公の身御察し下さいませ。勉強しとうございますが、御用があります故出來ません、手足の霜やけや、あかぎれからは、

◇血が流れますのも皆後の爲◇

自分の爲と思つて居ります。私は毎日その日〱のことを思つては、泣かぬ日はありません。又田舍から處女會の樣子を知らせて下さる友の手紙こそ樂しみであります。田舍に居りたうございますが、家の事情仕方がございません。田舍の友達は、最早十七歳になれば裁縫等に通つて居りますのに、私一人は遠く離れて

(注) 頁左下、原本において文章が欠落 (不二出版)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なります。申々色上げたいことがございますがあまり永くなりますから失禮いたします（下略）

◎その返事

○○さん、この間は失禮丁度横丁で會つたのは不思議でしたね。でも風邪も引かず何寄に思ひます實はあの時どこかへ一所にいつて話さうかと思つたが、其もわざとらしくなり、然しよい鹽梅でしたお座敷拜借していろ〳〵話したんだから、然し是からは、女中さんの部室も入りますね、だん〳〵さうなつて來ませう。

ありがたい所か、始終たづねてあげたいです。然し

（電話交換手のひなまつり）（交換局の内にこしらへます）

◇御奉公の身實に悲しく◇

○○子さん家庭といふものは案外面倒なものでせう。あなたは、先夜始めて、御隱居さんのむづかしいことを打明けられた。今まで私に一口も話さなかつただけに、おどろきもすれば、お氣の毒に思つた。あんたがいふのだから、よく〳〵のことゝ思ひました。あの時奥さんも私に、ソレとなくそのことをお話しなすつたよ。ほんとうに困つたね。面倒なものね。昔から

◇姑さんと嫁さんとは

仲の惡いものとされてゐるが、是はどちらがよいとも、惡るいとも一概に申されません。つまり心に愛が足らぬからのことでせう。人の顔かたちは十人十色、然し血は一様に赤く、體温は同じことです。愛の心、情の心は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

誰も同じであるべきです。誰が憎いの、誰が好きのといふ道理のある筈がありません。然し人情は波のようなもので、風のまに〳〵荒れる時もあります。靜まる時もあります。あの人は憎い、怨めしいといふ思ひが起るが人の習ひです。

然しよく考へてみると、仲たがひや憎み合ひなどはお互が正直であるから起ると思ひますよ。何故ならば爭ひにしても、自分は自分の方をよいと思ふ。ソレなのに、あの人は惡るいといふ、惡るくはない、善いのだ、自分の方がよいのだ、あの人は考へが違つてゐる直してあげたい、改めさせてあげたいと思ふ。先方は先方で、自分のいふことがよいと思ふ。正しいと思ふ仍で相方の考へが一致せず、喧嘩ともなれば、仲たがひともなるのです。惡るいと知りつゝ我を張るのは、正しくないことですが、よいと思つて爭ふ爭ひが多いのです。考へ方だけの問題で、もと〳〵この世の人はみな兄妹のようなもの、お互に愛し合ひ、信じ合はねばならぬのです。愛があるからこそ爭ひも起るのです

この世の人が、みな生れたまゝの無邪氣な、無欲な美しい心持に返つてほしいと思ひます。私どもは、きつと〳〵さういふたのしい時代が來ることを信じます親が子を愛し、子が親をなつかしむ、その間の情の美しさ、この心を萬人に推しひろめたいものです。嫁さんと姑さんとの仲たがひ、是ももと〳〵爭ふが爲の爭ひではないのです。

◇可愛ゆい我が子のつれ合ひ◇

ですもの、憎からう筈がない。たゞお年を取ると、口やかましくなるのです。世話が燒きたくなるのです。やたらに叱言いひたくなるのです。決して惡るい心になつたのではありません。お年の爲です。御隱居さんは七十と言ひましたね。よいお年ですね、朝起きるからねるまでお叱言いふといひますが、其はお察ししますあんたがその間に入つて、お二人に氣兼ねをし、毎夜「床の中で泣き、臺所で泣き」なさるその心持は十分にお察しします。よく若い身空でつとめて來ました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

然し奥さんが可愛がつて下さるとは、安心致しました。今に〳〵奥さんの氣持が、御隱居さんに通ずることゝ思ひますが、尙この上ともお二人の中に入つて、お二人の心の和らぐようにして下さい。若い娘のあなたがこんな苦勞をせられるのは、お氣の毒です。然し木は雨に風に、もまれるほど丈夫になります。人も浮世の風波にもまれるにつれて、考へが廣くなり、こなれて來ます。お坊ちやん育ちはもう駄目、今の苦しみは、やがて自分がお嫁にいつてからの心得を、神樣が敎へて下さると寧ろありがたくお思ひなさい。女學校の敎科書よんだだけでは、深い所はわかりません。あなたはよい活きた學問してゐるのです。

◇今泣くその淚は◇

五年先、十年先を仕合せにする笑のもとです。人の爲に圖り、人の苦しみを和らげる爲に泣く淚ほどたふといものはありません。嫉妬の淚、にくしみの淚は、同じ淚にしても下品です。廣く人の爲に、人類のために泣く淚こそたふとい。さういふ淚は、血のあふれです血です。

○○子さん、今或良家で子供の世話旁女中を欲しいと言はれる家がありますが、然し奥さんが可愛がつて下さり、尙旦那樣も可愛がつて下さること故、今少し辛棒しなさい。殊に奥さんがもう臨月ですからね。尙御面倒みてあげなさい。さうして奥さんからお許しが出たらよそへゆくのもよろしい。「御隱居さんがやかましいのでよそへゆく」では、今まで奥さんに仕へた甲斐がないぢやありませんか。ね。さうして一方には御隱居さんのお心の和らぐように、血と淚とを以て仕へてごらんなさい。鬼ぢやなし、きつと奥さんと仲睦まじくなりませう。

それから看護婦とのこと、是は此間もお話した通りあまりすゝめません。然しあなたが、看護婦になつて誠心から病める人を世話してあげよう、心からの淚を注いであげようと思はれるその心根をうれしく、たふとく思ひます。（下略）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

桃の花

□私しやお前が大好き

桃の花よ、桃の花よ私はお前が大好きだ。櫻子よりも梅子よりも、私はお前が好きだ。袂があらば顔をかくしたいようなお前の愛嬌、お前がにつこり笑つて赤くなつてゐる所は、初生な娘が、若い人を見て、羞かしそうにうつむいてゐるのにそつくりだ。

桃子よ、お前はどうしても、田舎娘だ。櫻子はきれいだが着飾つた町のお娘さんのようだ、梅子は品のよい舊家の奥さんか令孃だ。品があるがお前ほどなつかしくない。櫻子は少し華美すぎて見え坊だ。其處へゆくと、お前だ。器量では少しまけるか知らんが、初生で愛嬌があつて、なつかしみのある所が好きだ。田舎に生れ、田舎に育つた私は、お前が好きだ。

□お前は田舎の乙女だ

春のはじめの、野の旅は愉快だ。霞を吸ひながら、麥の若芽から雲雀の飛び立つをみながら、堤の上の胡蝶を追ひながら山又山を分けてゆく。と、山の麓に二三軒の藁屋が見えて、其門前にお前の姿をみたときには、ほんとうに嬉しい。霞の中からポーッと上氣した顔をみせて、につこりとほゝえんでゐる。

税輕き十戸の村や桃の花

ごらん俳人もお前が好きと見えて、こんな俳句をよんだ。租税の輕い十戸の小村といふから、いづれ片田舎だ。税輕きが面白いね。金庫もない代りに、番人も入らない。大地主でない代りに、小作人から怨まれる心配もない。隣り近所はまあ親類兄弟、何百年子々孫々

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

そこに住んで、泰平無事に暮らして來た。その小村に生れたお前は、自然と氣ものんびりしてゐる、浮世の塵に泌みない。『色のよい花山に咲く』お白粉よりも紅よりも、お前の天然のそのうい〱しい色つやが好きだ。どんないゝ器量でも、いやにツンとしてゐたり虚榮好きであつたりする女は大嫌ひだ。刺のある薔薇のやうだ。

□都にあこがれてはいけない

然し桃子よ、田舍も開けて昔のまゝぢやない。お前の胸にも人知れぬ悶えがあらう。又お前は年頃娘、都あこがれの心も燃えやう。其はよう察するよ。お前が田のくろにポッネンと立つて、うなだれて帶の間に手を入れて考へ込んでゐるところをも見た。鎌もつ手を休めて、チツと都の空を仰いで、溜息ついた姿も見た。

然し桃子よ、其をやめてくれ。後生だ。お前はやつぱり野の花だ。野の娘だ。清い初生なお前の考へてゐる町と、ほんとうの町とは、大變違つてゐるよ。ね。よつく考へてくれ。人の仕合せは何か。よい家が、よい着物が。よい指環か。心の平和！ 其が一番たうといのだよ。さうして愛にみちた生活！ 此が最後だ。さうさうお前に歌つてきかせるたい。

金は天下のまわりもの
富貴は雲ようき雲よ
人の願ひはたゞ一つ
かわいがられて共白髪

ね。わかつて？あゝうれしい、桃子よ、やがて一所に野で働きませう。山で遊びませう。

四月號考へ物

處女の友の印刷所で、活字を拾つて今組まうとしてゐる所ですが、さあみなさん何といふ文句を拾つたのでせう。考てよんでわかつたら早く知らせて下さい。

つよさし
女くやく
くはにま
らためじ

〆切は三月十五日
はがきのこと
本郷元町二の六六
「處女の友」發行所

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

新講談

描かれた娘（其二）

天野雅彦

前回は圓山應擧先生が、長崎の旗亭の離れ座敷に、不思議な姿を見た、その姿が消えると共に氣味の惡いうめき聲を聞いたと云ふ處でお別れでした。あくまで落ち付いた應擧

『ハテナ幽靈のうめき聲とは妙だな、正體見たり枯尾花、案外なものかも知れぬぞ、兎も角一つ正體見屆けてやらう』

と何處迄大膽な人でせう、庭下駄をつつかけて、そつと離れ座敷に近づき、内の樣子をヂッと伺つて見ましたが、うめき聲はもういたしません、ハテナ愈よ妙だよ、かまはず障子をさあつと開けました。途端應擧はギョッとしました、八萬四千の毛孔が一度に逆立ちしたやうに覺えました、女です、若い娘です、長い髮それも半ばはぬけかゝつた長い髮をふりみだして細つそりやせた肩へかゝつてゐた、青白い顏、ボンヤリした行燈に一層凄味を見せた、落ち窪んだ目に、驚いてギョッと見かへした顏の凄いこと、六疊ばかりの間に穢い腸綿の出た蒲團にくるまつて、部屋の中には柑子の皮だの紙片だの樣々のものがとり散らかしてある、應擧は病人だと云ふことをすぐ知りました。今湯でも飮まうとして立ち上つた、立ち上つたは上つたが、長の病に身體が思ふようにきかず、ついフラ〳〵として仆れかゝつてうめいてゐたものと知れた、應擧はやつと心を靜め、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『私は此宵、此處へ來た客だが、うめき聲がするので覗いて見た、驚かして相濟まぬ、病つてゐなさるやうだが、長い間の病氣かの』
『ハイ、もう病いついてから三月になります』
『百日か、それは大變、看護の人もないのか』
『ハイ、初めには色々と面倒を見てもらひましたが、かう長くなりましては』
『ふんしてお前は此內の娘さんか』
『どういたしまして、召使でございます、女中でございます』
『醫者にも見せ、藥などもせつせつとのみなさるか』
『奉公の身、殊には他國、なかなかさうはまゐりません』
『親兄弟もありなさらう。知らせてやりなさつたか』
『それを知らせる、親兄弟が、私には知れぬのでございます』
應擧は氣の毒に思ひました、旅の空で長の病、奉公の身で人に知らせてやることもならぬと云ふ、懐中から若干の金子をとり出し紙につゝみ、娘の前へおいて
見ず知らずの私から、こんなものは貰ひにくからうが、此處へ來合はせたのも何かの因緣、こんな處を見て通られぬ私の性分、どうかおさめておいて下されい、長崎にはよい藥もあると聞く、どうかこれでのんで下されい』
『もつたいない、彼樣のものを』
『いやさう斷はられると、私は迷惑する、私が世間を渡るには、年上のものは兄や姉、年下のものは妹

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

弟と思ふて渡るが私がたて前、私にも一人の妹が居りいつどこで、誰の世話になるまいものではない、どうぞおさめておいて下されい』

『それでは遠慮なくいたゞきませう、ほんとに有難うございます』

『シタが、今、お前は旅の身だとお云ひのやうだが、故郷は何處、而も知らする親御もないとお云ひのやうだつたが、どうやら仔細があるらしい、語つて差支がなくば話しておくれ、膝とも談合ではないか』

『はい、御深切によく問ふて下さいました、實は私は大阪天満のものと云ふことをぼんやり知つてゐるばかり親は何と云ふものか知らぬものでございまするから申しまするど、いかにも妙なことを云ふものと思召しませうが、なにしろ東西知らぬ六歳の年に別れましたのでございますので、わかりやうがございません、尤もその晩のことははつきりと覺えております、忘れられるものではありません、六歳のある晩、たしか天神樣のお祭禮の晩だと思はれます、兩親に手を引かれまして、お祭へまゐりました、方々ボウッと明るい晩だと夢のやうに覺えております、掛行燈だの提灯だの、見世物だの見てあるいたり親にせがんでいろ〳〵のものを買つてもらつたりしてゐました、すると、急に火事だ〳〵と叫ぶものがありまして、而も火元は近い、人がなだれをうつて、どよめき出しました時、どうしたはづみか、親に離れました、『お父樣！お母樣！』と聲をかぎりに叫んで、地團太踏んで泣いておりますと、見ず知らずの餘所のお叔父さんが、『お〻、此處に可愛い〻娘が泣いてる、どうしたのだ、えッ親にはぐれた。それは可愛さうに、よし〳〵泣くな泣くな、私がきつとさがしてやる、まあ泣かずにお叔父さんと一緒に來ナ、と色々の玩具などかつてくれて、私をさがして呉れました、やがて其晩はそのお叔父さん宅に寢たのでしたが、それが實はあまりよくないお叔父ざんでして、私は人さらひの手に渡りました、それ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

からそれと旅に人となりまして、それは〳〵は苦勞、口にも言葉にも申せません、流れ流れて此長崎の此うちに奉公いたしましたのも、指折り數へて見ますればもう二年前』

『あゝ、世にも憐れな話をきくものだ、お前が大阪と云ひなさるので、なつかしい私も實は上方者、京都に住つておりまする』

『それはなつかしいことでございます、上方だと聞きますと親の國、親はどうしてゐなさるか、どうかして巡りあひたいあひたいと、外に望はありません、どうかして、逢ひたいと思ひますので、頂きましたものも、つましうしてためておき、此二年が間にそれでもかなり出來ましたが、かくした業病にとりつかれ、その金もみんなになりまして、もう賴みにはなりません、よしまあその金がありましても、此姿になりましては、どうすることも叶ひません、もう此世では親に逢ふこともならぬかと思ひますと、それが悲しうございます』

と泣きふしました。應擧は同情にたえません。

『いや決して心配しなさるな、病氣さへなほれば、きつと、親にも巡りあはれる、さう嘆いては却つて身體の爲にならぬ、藥でものんで養生しなさい』

『御深切はありがたうございますが、もうだめでございます、しかし旅のお客樣、人の一念と申すものは屆くものでございませうか』

と力をいれて聞きました、その目の凄いこと、應擧は三たび、ギヨツとしました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

補習
教育

風俗の改良

我が國各地方の風俗、習慣には、勿論善美なものが澤山あるけれども、又改良すべき惡風、汚俗も鮮くない。今次に矯正を要する弊害の二三を記さう。

日本の國の方々の習はし、しきたりの中には、勿論よいものも澤山あるが、又改めて良くしなければならない惡るい風俗も少くありません。今次に改めなければならない惡るいことの二つ三つをしるしませう。

冠婚喪祭等の大禮に招待せられる場合、又は各種の集會等に參集する場合に、其の時限の極めて不正確なるは、一大弊害である。例へば主人側から正三時に開催するとの旨を通知してあるにも係らず、來會者の遲參ゆゑに五時又は六時からでなくては、開始の運びに至らしめない。甚だしきに至つては、無斷で欠席するものさへある。隨つて其の修了の時刻も遷延し、往々深更にも達して、翌日の業務にまで差支を生ずる事がある。これは今後必らず一洗しなければならぬ惡弊である。

結婚や神佛のおまつりなどの大事な禮にまねかれる場合やいろいろのあつまりなどにゆく時に、時間が正しくないといふことは、一番大きな弊害であります。例へば、主人側から正三時に開くとの知らせがあるにも係らず、來會者が遲い爲に五時か六時でなくてははじまるつごうにゆきません。ひどい人になると、だまつて斷りなしに缺席するものさへあります。それにつれて會の終る時間ものびて、ときには夜中になつて、翌くる日の仕事にまで差支を生ずることがあります。これはこれから必らずひと洗ひして流すように止してしまはねばなりません。

葬式は神葬と云はず佛式と云はず、近來は兎角華美を競ふ風が日を追ふて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

甚しく、盛に酒食を饗應し、生造花、放鳥など無用の供物をなし、さては平素親しく往來しない人にまで、通知狀を發して會葬させ、恰も鎭守の祭禮に神輿の渡御する如く、只管虛飾、外觀を事として、時間と金錢を徒費する事が少くない。酒食の饗應も物品の贈遺も素より一般に行はれる禮であるから、全く廢止するがよいと云ふのではないが、喪儀に會しては、衷心から哀悼の意を表するのが、第一に肝要のことである。

葬式は神葬でも、佛式でも、近頃はでをしあふ風が日ましにひどくなり、酒や食物をご馳走し、生花や造り花や放鳥など無用の供へ物をなし、さては、ふだん親しくゆききしない人にまで知らせ手紙を出して葬式の伴をさせ、丁度お宮のお祭に神輿をねり廻すように、たゞみえかざり、うわべばかりに心をよせ、時間とお金をむだに費すことが少くありません。たべものゝ御馳走も、品物のやりとりも、一般に行はれてゐる禮ですから全くよした方がよいといふのではないが、葬式の時には、まごころから悲しみ弔ふ心を表すことが、何よりも一番大事なことゝ思ふ。

物見遊山その他飲食の會合には、進んで出席する風があるけれども、青年會、處女會、矯風會、衞生會又は小學兒童の父兄懇話會などの類には出席を嫌ふばかりでなく、往々之を惡解して他人の出席をまでも妨げるものがないでもない。是等の會合は風敎を維持し子弟を敎養するのに、裨益の少くない事であるから、己は勿論他人を勸誘してまでも出席しなければならぬことである。

芝居や見せ物や山遊び海遊びそのほか飲み食ひの會には、喜んで出る風があるが、青年會、處女會、矯風會、衞生會又は小學校兒童の父兄懇話會などには、出ることをいやがるばかりでなく、さき〴〵之を惡ろくいつたり、他人の出席をまで邪魔するものがないでもない。こういふ會は、世の中の正しい風俗をもちこたへ、若い人たちを爲になるよう敎へ養ふに、益の少くないことでありますから、自分はいふに及ばず、他人をもすゝめさそつてまでも出るようにしなければなりません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

日用熟字展覽會

印象（物をみて心にのこしたあと）賠償（他人に蒙らせた損害をつぐなふこと）放縱（きまゝ）漂流（たゞよひ流れる）佇立（たゞずむこと）竹馬の友（をさなともだち）遲參（後れて來ること）珍味（珍らしい食物）罹災（災難にかゝること）利殖（財産のふゆること）臨終（いまは）汚名（けがれ不名譽）喝采（ごよめき渡りてほめること）諫言（いさめること）豫防（物事の起らぬ前に防ぐこと感冒豫防）卓見（すぐれたる考）端緒（ものゝはじめ）旦夕（あさばんといふこと命旦夕に迫るなどゝ用ふ）廉恥（心根の正しく清きこと）卒先（物のさきにたつこと）然諾（承知すること）驅逐（追ひはらうこと）痲痺（しびれること・心臟痲痺など）稀有（稀にあること）險阻（山のけはしきこと）不如意（思ふがまゝにならぬこと）不慮（思ひもよらぬこと）復讐（かたきうち）風情（あぢはひおもむき）分業（手を分けに仕事をすること）夭死（わか死）慘憺（なげかはしくいたましきこと）殘酷（むごたらしきこと）興味（おもしろみ）虚榮心（内を修めずしてうはべのみかざる心）義務（自分のなすべきつとめ）機敏（すばしこきこと）敏捷（前と同じ）勇敢（勇ましきこと）使途（使ひみち）四民（士、農工、商）自主獨立（人の世話にならずひとり立ち）自信（自分で正しくよいと信ずること）信任（信じて事を任せること）非道（道理に外れたること）卑劣（心又は心のいやしきこと）卑近（手近なること）切磋琢磨（智識道德をみがくこと）攝生（からだを丈夫にする爲に身を守ること）推薦（役などに人をすゝること）救主（救つてくれる人）絕倫（すぐれること精力絕倫などゝ用ふ）瞬間（一寸の間）飢渴（うゑかはくこと）募集（つのること）萠芽（めばえ）麥浪（麥畑）假借（ゆるすこと）杆格（一致せざること）令聞（ほまれ）樂天（自分の境遇に安んずること）遺訓（死するときの訓）解脫（苦しみをさとりのがれること）現實（現在にあらはれてゐること）永遠（末永く）要素（もと）厭世（世をいとふこと）唯一（唯其のもの一つなること）歸依（佛の道に入ること）生者必滅（生あるものは必らず滅びる）精進（誠心こめて行ひ修めること）衆生（世上一切の生物）純樸（いつはらなくすなほなること）圓滿完全（かけたる所なく十分に滿足すること）否定（いけないと首を振ること）寂寞（さびしきこと）戰慄（ふるひをのゝくこと）崇高（けだかきこと）垂訓（敎へを垂れること）夕陽（ゆふひ）絕交（交りを絕つこと）

○これから文字や文章のわからぬ所があつたら質問しなさい。誌上でお答へ致しますから遠慮なくおたづね下さい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

戰時悲劇

召集令

一、泣いてくるな

義人の影に節婦あり、烈士の後ろに烈女あり、男子功成り名を遂げて、一世の師表と仰がるゝも、内助の功のあればこそ。

此處は中國廣島を、東に僅かはなれたる、矢野と名づくる村落に主人を松岡幸藏と申しまして、廣島の生れ、妻君をおたねといつて岐阜縣大垣の生れ、縁ありて廣島で夫婦となり、二人の子供が出來る。細君は三年越しの長煩ひ、寢たまゝ動く事が出來ないといふ。兄の方が六ツで、弟が三ツ、兄の方は至極無難に育つやうだが、弟の方が育ち難い、かてゝ加へて細君、病氣のために乳が出ません。仕方がないから幸造は毎日近所近邊乳の出る婦人の所へ貰ひ乳に歩く、初めの中は貰ひに行かなくとも心ある人態々先方から出て飮ませて呉れたけれども、三年にもなるとさうよい顔ばかりはせぬ。自然と人が面倒がつて來る、といつて、ミルクを買つて飮ませる腕前はなし。毎日麥の汁ばかり飮ませて居るから

孝女白菊の歌

（四）

父上ゆるさせたまひてよ
　兄上うらみなしたまひそ
この世をわれはさきだちて
　母のみもとに待ちぬべし。
南無阿彌陀佛といひすてゝ
　さばむとすればうしろより
まちてと呼びて引きとめし
　人はいかなる人ならむ。
おぼろ月夜のかげくらく
　さやかにそれとわかれども
春秋かけてしのびてし
　兄と少女は知りてけり。
夢かうつゝかまぼろしか
　思ひみだるゝさ夜中に
里のわらべのふきすさぶ
　笛の音とほくきこゆなり。
とひつとはれつ來しかたを
　きゝつきかれつゆく末を
ひと夜かたりてあかせども
　なほ言の葉やのこるらむ。
わがふる里のこひしさに
　道をいそぎて歸らむと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

大層痩せ衰えて骨と皮、まだ痩せたいが骨が邪魔になつて痩られないといふ有様……幸造は毎日百姓の雇はれ仕事、日に三十五錢の賃錢を貰つて漸く其の日の飢餓を凌いで居る。今日も二人の子供を連れて畑に來た、弟の方を木の下に寢せて、兄の方が守りをして居る、親は一心に畑の中打ち、親の心は子知らず父親が汗水流して中打ちした後から、兄の方が踏みたくつて歩く。

「コレコレそんな惡戯しちやいかん、三公泣いて居るぢやねえか守をせんか守を……」

「チャン三公泣くよ、坊は歸るよ、歸るよ……」

子は三界の枷桎ぢや泣いて呉れるな頼むだ、お前も此の世に縁のないものなれば、一日も早く引き取つて呉れ、金持ちや、分限者の子供達は、鼻風邪も引かぬに、ようコロ／＼死ぬるが貧乏人の子供達や、如何してこんなに粘り強いかしらん「アヽ泣かなくともいゝよ、歸るよ、歸るよッ……」

二、それだけはお助けを

泣く兒を背に幸造が我が家をさして歸る途、折しも出會ふた一人の紳士、山高帽を目深かに冠り、カバンを提げ、黑洋服、駒下駄穿

野こえ山こえゆきゆけば
　かすみたなびき花もさく。
日數もいく日ふる雨に
　ぬれてやつるゝたび衣
家にかへりしそのをりは
　五月頃にやなりつらむ
山ほとゝぎすなきしきり
　かどの橘かをるなり。
しげる夏草ふみわけて
　軒端をちかくたちよれば
むかししのぶの露ちりて
　袖にかゝるもあはれなり。
妻戸おしあけ内みれば
　あやしく父はましましき
こなたのおどろきいかならむ
　かなたの嬉しさまたいかに
父上さきくとおさなへば
　子らもさきくとこたふなり。
事をこまかにきゝてより
　父もあはれと思ひけむ
兄のいましめゆるしやり
　妹のみさをほめにけり。
親子の三人うちつどひ
　すぎにし事ども語りあひて
くむ盃のそのうちに
　うれしき影もうかぶらむ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

き、洋服に駒下駄といふ奴が一番みつともない奴だ……幸造は見るより、

「アッしまつた……エ、旦那誠に面目ない所で御目にかゝりました」

甲州名所御嶽

（豐後の耶馬溪以上とのことです）

「ナニツ何處が面目ないか、イヤサ何處らが面目ないか、俺は今迄貴樣の嬶の枕元で熱くさいのを我慢して待つて居たぞ、一圓について日に三錢の利のつくといふ事は得心をして消費つたらう、

われあやまちて谷におち
のぼらむすべもあらざれば
木の實を拾ひ水のみて
ながき月日をおくりにき。
ある日のあしたおきいでゝ
峰のあたりを見あぐれば
ながくかゝれる藤かづら
上にましらの啼き叫ぶ。
啼くなる聲のなにとなく
こゝろありげにきこゆれば
神のたすけと攀ぢのぼり
はじめて峰にのぼりえつ。
うれしさあたり見わたせば
さきのましらはあともなく
木立のしげき山かげに
蟬のこゑのみきこゆなり。
うき世のならひといひながら
うき世の常とはいひながら
人になさけのうせはてゝ
獸にのころぞあはれなる。
父のことばをきゝ居たる
二人のこゝろやいかならむ
うれしさ兄のたち舞へば
たのしさ妹もうたふなり。
千代に八千代といひいひて
ともによろこぶなりしもあれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

最うこれ利子をつもつて拾圓になつてるぢやないかエッナニッ…ウム……ウム……馬鹿ツ、人を馬鹿にするな、俺が何も知らぬと思つてるか、俺が昨日新聞を見たぞ、松岡幸造は壹圓七十五錢といふ金子を軍資金に獻納してゐるぢやないか、サア、そういふ氣樂な金子があつたならば何故、一文でも俺に拂はぬか……」

「ハイ、何も親方の御言葉に口答へするぢやありませぬがあれァ仕事先きから藁を貰つて參りまして女房の介抱の傍ら枕元で草鞋や草履を造りまして、海田市に持つて行つて賣つたお金が三圓餘り、今度の戰爭については私共も難儀だが又辛い御方も行かれるであらう、思へば　天皇陛下の御爲……」

「生意氣な事いふな……政府は貴樣達のやうな貧乏人の拾や貳拾の金子を目的としちや居らんぞそれがために平素からヤレ所得税ソラ戰時税、ヤレ增税……アレも税金コレも税金……を何のために取つてゐる、こういふ時に國民に厄介にならず政府は政府一手でやらうと思へばこそ税金とつてるんぢやねえか、又日本といふ國は何うしてコンナに戰さが好きな國かしらん、明治二十七八年の日清戰爭がすんだと思へや三十三年の北京の戰爭、こいつもすんでやれ安心と思ふ間もなく今度の戰さ」（以下次號）

うしろの山の松の枝に
ゆふ日かゝり鵲ぞなく
（をはり）

皆さんご注意

牛乳五勺の爲に死亡

一月二十九日の萬朝報に次の記事が出てゐました。二十八日前七時頃府下千住町三の三百八十五、鍛冶職久我正道（二〇）は、火鉢の灰に牛乳の五勺罎を突込み、暖め居る中、突然破裂して硝子の破片が咽喉部に中り頸動脈を切斷し人事不省となりし騒ぎに、醫師を招き手當を施せしが出血多量の爲め同八時遂に絕命す。

牛乳罎を火鉢の灰に温めることは、誰もやることですが、こんなことにならうとは、誰れも思ひますまいに、口を少しあけて置けばよかつのですのに、然し口をあけて置いても危險です皆さん御用心〳〵。

○召集令

召集令は浪花節でございますが、悲しい中に美しい人情がありますからのせました。涙なくしてよむ人はありますまい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ゆり子よ

二十八になる弟はゆり子(二ツ)を置いて去年歸らぬ旅に赴きました。今義妹の里で養はれてゐます。(あ生)

○

ゆり子よ、
お前のあの可愛ゆい目がみえる、
可愛ゆい聲も聞える、
お前の目はだん〴〵輝いて來る、
お前の頭はだん〴〵大きくなる、
お前の智慧は一日增しについてくる
然しゆり子よ、
お前の目はどんなによく見えるようになつても、
お前の目に見えないものが一つある、
其は父ちやんの顏だ。父ちやんだ
其は千年經つも、萬年待つても見えない。

○

ゆり子よ、
お母ちやんの乳は甘かろ。
お母ちやんの懷ろはあつたかろ
わきてもお母ちやんの瞳はお前には愛の結晶だ。
お前はお母ちやんの瞳に生さてゐるのだ。
ゆり子よ、お前の爲のお母ちやん
お母ちやんの爲のゆり子！
お前は仕合せだ。
然しゆり子よ、
お母ちやんの外に、
もう一人お前の好きな母ちやんがゐた。
それはお父ちやんだ。
お前はお父ちやんを知つてゐるか
いやいや知らう筈がない。
仕合せか不仕合せか。
涙なくして父をみ送つたお前は—

○

お父ちやんの亡くなるとき——
お前をみつめたその目の色——
ゆり子！ゆり子！。と
心の中で呼んでゐた、けれど聞え

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ない、
ゆり子よ、お前はその時、
ニッコリ笑つてゐた。何んにも知
らずに笑つてゐた。
その短い一瞬間が、天にも地にも
かけかえのない
親と子の別れだつたのだ。
ゆり子よ、『親はなくとも子は育
つ』
ましてお前には優しい母ちやんが
ゐる、
ゆり子よ、早く大きく育て、
然しわしはお前を今のまゝに置き
たい
お前が大きくなると、お前の目が
耳が、聰しなると、お前の顔は淋
しくなろう。
丁度ゆりの花が雨にしほれたよう
に。
其を見るお母さんがいぢらしい。
あゝ親のない子！　親のない子！
鳩のような目！
櫻のような頰！
いつまでもそのまゝに置きたい。

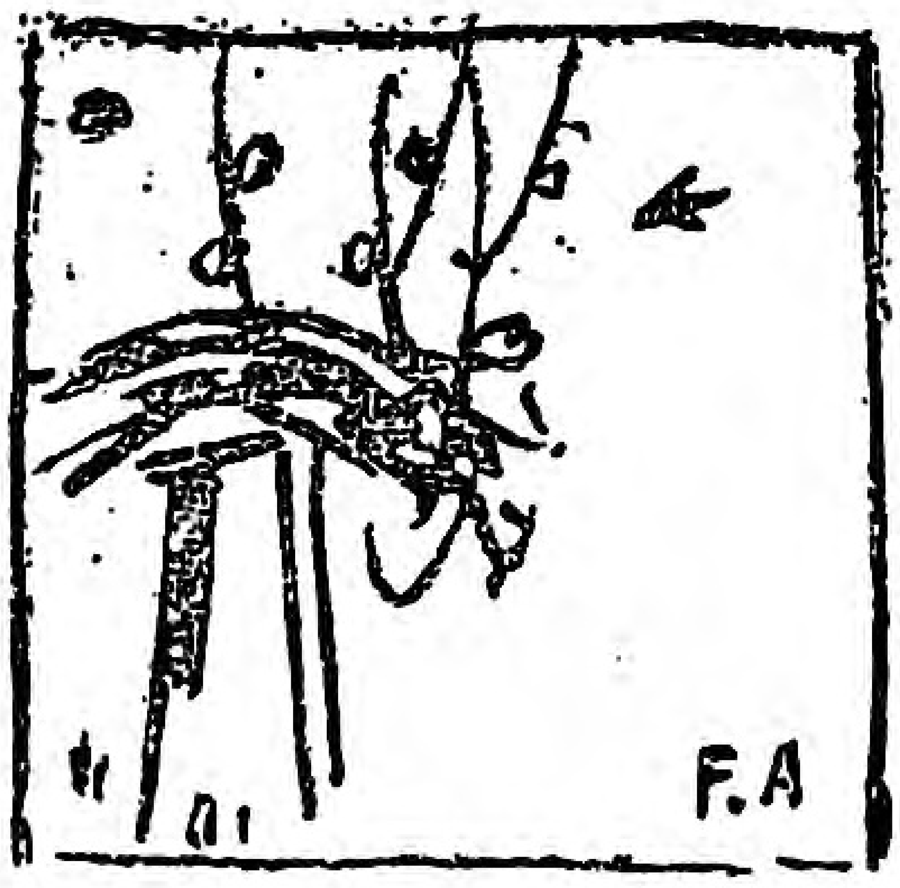
○

『ゆりちやん、にぎ／＼しな』
伯父さんがいふと、あの可愛らし
い手を出して、
にぎ／＼したつけね。
『ねんねはなんと泣く』
ときくと、紅葉の芽のような手を
目にかざして
『エーン／＼』と泣くまねをした
つたね。ゆり子よ、
お前が大きくなつて、もの心がつ
いて、
佛様の前で、お墓の前で、
ほんとに手を合せて
心の中で泣く時が來るのが悲しい
ゆり子よ、大きくなれ、可愛ゆく
てゐな。

○

然しお前は仕合せだ。
お母さんがゐるお前の好きな――
お母さんの愛はお父さんと二人分
だ、
お母さんのよい子になれ
お前が笑へばお母さんも笑ふ、
お前が泣けばお母さんも泣く、
けれどお母さんが泣くのをお前が
笑つて慰める、悲しい時が來ると
思ふと、伯父さんは泣ける。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



都にあこがれて（其六）

白雲生作

□恐ろしい夢

いつどうして來たか知らないが、お房は崖の細い道を通つてゐた、下をみると、何千丈もあるような谷である。と、どこからか見知らぬ男が來て、一所にゆこうといふ。默つてついてゆくと、矢庭にお房の兩手を捉へて、千丈の谷底へ突き落とさうとするアレーッと悲鳴をあげた、途端目がさめた。

『をゝ恐ろしい夢をみた、夢でよかつた』とお房は身を顫はせて喜んだが、今自分がこゝに、こんな恐ろしい所にゐることに心づいて、

『いえ〳〵夢ぢやない、夢ぢやない、私の身の上は丁度今の夢の通りだ』と薄い蒲團の襟を嚙んでしみ〴〵と泣くのでした。

夜なかであらうあたりは深として電燈が靜かにともつてゐます。他の女たちは、仰向きに、右向きに左向きにめい〳〵に深い睡りに落ちてゐますが、お房は我が身に引き合せて、同情の淚が、とめどなく頰にあふれるのでした。

『あゝ、あゝわるかつた』

苦しさうにうなされてゐる人もありました。ギー〳〵と齒ぎしりの音も聞えて、淋しさと寒さが身に沁みますので、お房はスツポリ夜具を冠つて目をつぶりました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

うと／＼とすると、こわい夢をみては、うなされます。其からは少しも眠られません。寢やう／＼とあせるほど眼が冴えて、頭は澄んで來ます。後悔の涙、これから先どうなるかといふ不安の涙、故里の親を思ふて不孝を詫びる涙、ふいても／＼後から熱い／＼泪があふれ出るのでした。

□をゝあなたは君子さん

その朝でした。お房は同じ運命で懇意になつたお里さん、お梅さんと、つきない身の上話などし合つて、慰めたり、慰め合つたりしてゐますと、梯子段を上る足音が聞えます。誰か二人のようでしたのでみんな顔見合せてゐますと、扉をギーッとあけて入つて來たのは、例の男と見馴れぬ一人の娘でございます。

『さあ貴様もこうなつちや逃げられない、仲間が大勢ゐるから、賑やかでよい、剛情なアマ奴ハ、、』毒口ついて、突き出すように押しましたので、女はよろ／＼と座敷に流れ込みどつかり仆れてしまひました。十七八位な娘で、髪は亂れ、着物も穢れてゐますが、どこか上品らしい俤が見えます。

『お氣の毒な、また私たちのようにあの人鬼の爪先にかゝつたのだ』

口にはいひませんが、お房たちは、同じ思ひで互に顔と顔とを見合せるのでした。

眼を赤くしてうなだれてゐましたその女が、恐る／＼顔をあげますと、

『をゝあんたはお君さん』

『をゝお房さん』

『あなたどうして』

『あなたは』

二人は、懐き合つて奇遇に泣きました。後で其譯を聞き知つたそこの女たちも、貰ひ泣きしました。其からは、此處にゐる婦人は、一層親しく睦じく、姉妹の誓を立てました。わきてもお房はお君を慕ひ、お君はお房を愛し、ほんとうの姉妹のようにむつま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

じくなりました。

□大暴風雨！

惡漢は時々來ては威どしてゆきます。聞くさへいやらしいことをいつたり、紊りがましいことをしたりします。埼玉から來たとかいふ年増の女は、もう恐れません。男が來るとは、反對に毒口ついてゐます。然しほかの娘たちは、恐ろしくて狼にねらはれた羊のように、小さくすくんでしまひます。二階ですからよくわかりませんが、下には始終人が入つたり出たりしまして、時々女の笑聲も聞えます。ごはんの時に來る女は、お房が此家に來た時にゐた女で、人相のこわい、中媼さんです。『私たちを救つてくれる味方になつてくれるべきなのに』と此家にゐる娘たちが、うらみに思ふのも無理はありません。

その夜でした。お房とお君はひとつ夜具の中で抱き合つて不思議のめぐり合せを喜びながら、あの恐ろしかつた晩のことを、倘くわしく語り合ふて時の經つのを知りませんでした。お君は逃げそこねて一人つかまつて、其から攻め折檻をされて苦しかつたと言ひながら、抓られたむごい跡のある白い右の手を夜具の外に出してみせました。

『其からどうして』

二人は口と口とを突き合せるようにして語り合ひました。搔つまんで言へば、お君は惡者の爲に身を汚がれさうになり、其を拒んだ爲に、遊女になることを强ひられましたが、どうしても肯きません。その度每に折檻されましたが、たとひ死んでもとお君は決心致しましたので、惡者は手こずつてしまひました。その夜とう〳〵また逃げ出しますと、また追手につかまり、こんどは『ソンなにいやならよい所がある』といつてとう〳〵此家に伴れて來られたといふことであります。

『そしてあなたのそれからのことをもつとくわしく話して』

ゴーッといふ音に耳をすますと外は大暴風雨です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

紀念（記念ともかく、はじめは紀でそれから記となり、近ごろはまたもとの紀にかへつたようです）

薫陶（みをしへ）

顧問（相談役）

農閑時期（農事の閑なとき）

喜の字以上（七十七以上といふこと）

私の村の處女會

私の村の處女會は今上天皇陛下御即位大禮を紀念として設けられ、義務教育を卒へて、お嫁入りするまでの處女を會員とし、現在の會員は百五十六人あります。

會長は二十年も村の校長をして居られる太田先生で、會員は大抵先生の薫陶に浴したものであります。女教員の神田先生、榊原先生は幹事として、村長さんは顧問として、みな熱心に御世話して下さるのは、私達の仕合せであります。

事業の主なものは、農閑時期に開く講習會や講話會を始めとして、その日歸りの遠足、村の仕事の手傳などであります。去年のお彼岸の中日には、村中の喜の字以上のお年寄十五人を福樂寺にお招きし、敬老會を開きました。會員は、お年寄にあげる頭巾をこしらへるやら、甘酒をつくるやらして、大さわぎをいたしましたが、みんな大滿足して下されお

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

鄭重（ていねい）
豫定（まへからのきめ）
創役（創ははじめ設は設けろ、はじめてこしらへろこさ）
果樹（くだもの梨やりんごや、ぶなど）
菜（野菜さいふこさ）
涵養（たくはへ養ふこさ民力涵養抔さ用ふ）
常識（誰でも知らねばならぬ智慧）
實踐（實地にふみ行ふ）
躬行（自ら行ふ）

宅の方からも鄭重な御挨拶がございました。今年は春の彼岸に青年會と合同して第二回を開く豫定で、會員は樂しみにして待つてゐます。

まだ創設して間もないことでありますから、基本財産はほんの僅かしかありません。然し去年村の方々の御世話で、一反二畝歩ばかりの試作地をいたゞきましたので、此處で果樹蔬菜を栽培し手分けをして丹精し、其の賣上金を會の基金に積み立てるつもりでございます。

村と連絡して學齡兒童の就學の世話をしますのも、わが處女會の一つの特色と信じます。之が爲に役場も大變樂になり、父兄からも喜ばれてゐます。就學歩合のよいことは、郡下第一等といふことであります。

會は婦德の涵養と常識の養成に重きを置き、強く、優しく、まじめに働け主義を實踐躬行して居ます。會が出來ましてから五人ほど結婚されましたが、皆幸福な家庭を營んで居られます、一昨年からお嫁入の時にお別れの會を開き、紀念として鏡と寫眞とを贈呈することに致しましたが、その寫眞は大地主の片山さんの奥さまが下さいます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

働く女の數

○日本中の女中さん

日本中の女中さんは六十八萬六千人ほどであります
その中田舍の女中さんが三十一萬六千人、町は五十六
萬八千人、若い娘七人中一人は女中さんになつてゐる
勘定です。

○女工さんの年

十歳から十二歳までが　八千九百七十六人
十二歳から十五歳までが　十萬三千七百十七人
十五歳からが　五十萬三千二百二十四人

○停車場に働く女子

停車場で働いてゐる女子は三千七百六十七人

○郵便局では

郵便局で働いてゐる女は、一萬五千三十一人、局の交換
手は九千三百八十三人

○料理屋などの雇女

東京の料理屋藝妓商などの雇女の數は一萬三千二百六
十三人

○藝妓と娼妓酌婦

藝妓は　五萬二千四百六十六人
酌婦は　六萬二千八百〇四人
娼妓は　四萬八千〇五十九人
合計　十六萬三千三　二十九人

○女敎員の數

小學校、女學校、幼稚園其他で　五萬五千〇四十七人

○女中さんの給料

東京、大阪、京都、青森、金澤など二十六の大都會を
平均して高い方で一月賄付四圓二十八錢、普通が三圓
十二錢

○銅山で働く女

石炭、石油、金山の中で働いてゐる女は、七萬四千〇
六十二人、その中坑内にゐる女は、四萬四百六十五人

◎質問應答

わからぬことは何でもおきゝ下さい、お答へ
致します。なるべくはがきで願ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

全國處女會 婦人會 主婦會 一覽（其六）

岡山縣（續）

五房郡

名稱	創設年月	會員數	會長氏名
吉川村處女會	六、四	一三〇	豐田正憲
有漢村處女會	六、一	八〇	金岡助九郎
上水田村處女會	六、三	七〇	三村高右衛門
水田村婦女會處女部	六、四	七八	妻井一郎
中津井村姉妹會	五、三	一六五	中山辰太郎
中井村婦女會	六、二	一三〇	横上若太郎
豐野村婦人會處女部	六、二	一五〇	仁熊助右衛門
川西村婦女會	六、二	一二〇	荒木要一
杉山村婦人會處女部	六、二	一三〇	中西英一
上花村宗道婦人會處女部	七、三	九〇	室貞一

廣島縣

田萬里村處女會	四一、九	二九	勝川敏吉
小谷村處女會	七、一	一八	千日サツヨ

豐田郡

河内婦女會	五、二	七〇	藤野政熹
宇山處女會	元、一〇	三一	高瀬嘉六
造賀處女會	七、七	一〇	柴田萬一
乃美村處女會	四、四	二〇	切野恕一
西川源處女會	四四、九	三六	春日志一
中川源處女會	五、十二	六五	佐々木鐵夫
川源處女會	四四、六	二五	信樂ミツ
椹梨村處女會	六、一	一八	小吉川里次郎
小田處女會	六、四	五七	杉原儀一
大草村婦人會	三、四	六八	豐原ミユキ
高坂村北部婦女會	元、九	四三	缺員
長谷村西部處女會	四、三	四三	安久善二
長谷村東部處女會	五、五	七〇	神笠政七
本郷村婦人會處女部	六、三	八三	上西元一
下北方村、上北方村、善入寺村組合處女會	四四、四	六七	河原義雄
南方村婦人會處女部	四、二	三九	高田定太郎
沼田西村處女會	七、三	二七	上垣内敬太郎
末廣處女會	六、四	一八	大井新吉
納所處女會	六、七	三一	日下三郎
未見處女會	六、二	三九	永井多市

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

須波村處女會	三、四	五一	森岡柳吉	
佐江崎村女子會	四四、四	二〇四	後路大市	
吉名村婦女會處女部	七、五	六九	中野貫市	
久友村處女會	六、四	六三	木阪次郎	
大長村婦人會	四二、一〇	一四八	榊原倉吉	
中野村婦人會	五、四	九〇	石井浦太郎	
東野村處女會	七、一	四〇	石原正市	
高根島村婦人會處女部	六、四	三二	中野司一	
東生口村處女會	七、六	四九	橋岡松太郎	
淑德處女會	四、九	五二	山本五次	
矢野村國留處女會	六、九	二六	藤井建一	
矢野村矢野婦人會	四、七	八七	山岡カツ	
矢野村矢多田處女會	六、九	一六	田邊德助	
階見村處女會	五、十	三二	種田光登	
吉野村處女會	五、十	七五	田部隆雄	
領家村黒目處女會	七、四	一六	藤村惣五郎	甲奴郡
領家村龜谷處女會	七、三	三七	藤野九郎二	
領家村五領處女會	六、九	四五	秋山孝一	
田總村處女會	六、二	八九	古森隆一	
上川村東部處女會	六、九	三八	佐藤貞一	
上川村知和婦人會	六、四	二三〇	秋山ツル	
甲奴村處女會	六、七	五七	千代田治右衛門	
山手村處女會	二、四	七五	山崎榮一	
草戸組合村處女會	六、九	一二〇	柿原幹太郎	
津之郷村處女會	三、十二	一〇七	土岡寛一	
瀬戸村婦人會	四五、八	五〇〇	友瀧.正一	

赤坂村處女會	四五、五	一四〇	青景誠一	
神村婦女會	二、四	一六〇	篠原直衛	
高須村婦女會	二、三	一五〇	森井豊五郎	
太田處女會	四四、十二	六〇	水ノ上ウメヨ	
山波村處女會	四五、二	六〇	立林一滋	
松永町處女會	六、六	一六九	松田伊兵衛	
柳津村婦女會	二、五	一三〇	高木金三郎	
金江村婦人會	二、三	四七	山本眞太郎	
藤江村婦人會	六、六	四五〇	藤原コチヨ	
浦崎村婦人會	三、	一五〇	三原元三郎	
戸崎婦女會	四、一	五四	高橋橋	
百島村婦人會	四四、一〇	五四	赤松勘治郎	沼隈郡
百島村處女會	四五、一	一六八	大本音三郎	
横島村婦人會	二、九	一二八	丸田勘一	
田島村中央婦人會	三九、一	三五	室宗陽大郎	
田島村高島處女會	三九、七	一一〇	有木善一	
千年村能登原處女會	三九、九	八三	村上武一	
千年村中央部處女會	五、十一	七〇	柴田八郎	
千年村常石處女會	三九、	四六	田中政逸	
千年村常石婦人會	四四、	二〇〇	三須明岳	
千年村佛敎信友婦人會	四〇、二	五〇〇	岡部圓照	
山南村處女會	四〇、	一〇〇	高山秀雄	
熊野村婦人會	四二、二	二〇〇	佐藤勉	
水呑村婦人會	四〇、四	一五〇	山田惠喜太	
鞆町婦人會	二、五	二一四	林ツネ	

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「小草より」(二)

信よ

私達はよく私達の心に睡つてゐる愛兒の名を呼びます。無意識に彼の名を口にする時、それは習慣から來てゐることもあります、淋しい心が呼ぶともなく彼の名を囁いてゐることもあります。どちらにしても私はそれをうれしいことに思ひます。

どうしても彼の名を呼んで私達の心を告げなければならないと思ふ時があります。その時私達は涙なしに云ふことが出來ません、それがたとへ嬉しいようなことがらでも。

嘗て列車の中で姉へのハガキに、墓地へ向つて信よと一言呼んでやつて下さいと書いた時、私はその言葉に自ら泣いて、赤羽から上野まで顔をあげることが出來ませんでした。信のお父さんの玉虫に、信の永眠紀念に求めた本へ何か書くようにと云はれた時、私は信信、信と書きました。「これが一切をつくしてゐる」と。

彼もその名を呼ばれないことは淋しいでせう、悲しいでせう。

旅

(汽車中のお父さんから、お留守居のお母さんへ宛てられた手紙の一節)

「お父さん、お日樣はどこから出るの」信がだしぬけにかう云ひますから、私は何の氣なしに「山から」と答へました。すると「ハヽヽ、お父さん間違つた、山なんかどこにもないのに」と云ひます。見ると信はこつちの窓からむかふ側の窓へ行つて外を見て云つてるのです。「さうだ、お父さん間違つたね」私は降參しました、實際外は一帶の平野なのです。私はうつかり「お

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

日樣は山から」と讀本式な返事をしたのでした。
昨夜は上ノ山溫泉で、信は初めてお母さんの傍を放れて寢るのだからと心配しましたが、ちつともむつがりもせず「恭ちやんはマコちやんが居ないから泣いてるでせうか」、「泣いてる」、「お母さんは淋しがつてるでせうか」、「さびしがつてる」なんて話をしながら、いつものやうにニコ〳〵して睡つてしまひました。私は今度の旅で一層此子が可愛くてたまらなくなりました。

お〻信が又うまいことを云ひます、「烏はバカだねえ」と云ふんです、「なぜ」つて聞くと、「雨が降るのに飛んでるから濡れちまふ」のだそうです。三年と少しか經たないといふのに、かういろんなことをよく覺えるものですね、今度歸りに日光から中禪寺へは、おぢいさんもあなたも、みんなでこの可愛い〻話を聞きながら行かれるのですね。

お父さんの胸へ

マコちやん
お母さんはあなたを愛してゐました。
しんからほんとに愛してゐました。
けれども、マコちやん
あなたはもつとどんなに〳〵
このお母さんを愛してくれたでせう
お母さんはそれを考へると
どうしてい〻かわかりません

*

マコちやん
お母さんはあなたのお骨へ向つて
さよならといふことが出來ないのです
お〻さうです
マコちやんとお母さんとの間には
いつまでも〳〵
さよならといふ時が來ないのです

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

誌友くらぶ

ごなたも御仲間入なさい、お順にお入りなさいはがきにかいて御出でなさい。

○寒さの時分記者樣には御勇健にて日々處女の友につき御れつしん下され、私は月々の處女の友の來るのを待つて居ります、私は大野原村の處女會員てす記者樣へおたよりは今度が初めてです、皆さんよろしく(香川縣三豐郡大野原村川上富枝)

○あゝなんといふよいことばかりある「處女の友」私は處女の友の中にかいてある「お時さん」のことをみて、自分は今までなまけて居つたことがわかりました。三月號が早くみたうございます。(東京府下大島町五丁目小名木川工揚内大友みどり)

○記者樣には御障りも無之ゐらせられ候や御伺申上ます、私事毎月有益な「處女の友」を何よりの友とし田園生活の美を味ひ居り候御安心被下度目下は桑園の中耕にて大多忙に御座候(三重縣河隆郡飯野村安塚山際くすゑ)

○私は四國の片田舍に生れた一處女でございますが、いつもやさしい御誌の深い愛讀者で未だ見ぬ誌友の諸姉樣をお慕ひ申して居ります此の後共によろしくおねがひ申します。記者樣おねがひ申ます最少し發行日を早くして下さらないでせうかだつて妾の手に入るのはいも十日頃ですものほんとに待ち遠いのですもの。

島根の森脇操さまいつもおやさしい和歌を拜見してお慕申して居りますどうかよろしく(香川縣三豐郡大野原村高木ひさ)

○ごことなく春らしくなりました　先生樣方には御無事にお暮し遊ばされますやら私は無事に靜かな田舍でたのしく暮して居ります私が處女の友を愛讀し初めましたのは大正八年の正月からでございました今で一ヶ年以上になりますに一度もお便り致しませんでまことに御無沙汰致しました(島根濵村秀野)

○記者先生お變りありませんか先生私は昨年の十月からの愛讀者であります私は福島縣の山中の田舍乙女で今まではし淋しく暮して居りましたが處女の友を愛讀するやうになつてからはたのしい／＼日を送つて居りますこれも皆な處女の友のお影げであります先生始め誌友の姉上樣何卒宜しく御願ひ申上ます先は先生方御身御大切に(福島郡信夫郡荒井村阿部きく子)

○我香川縣下て副業中最も有利なるは麥稈眞田である他に色々副業有れども道具代も高ければ健全なる人を要するが此の(ベクカンサナタ)は女子供に適用なり我近所には八九歳ばかりの子で四五十錢取者ありおたづれくだあればくわしくおこたへ申します「外國の金を汲み取る眞田かな」(香川縣三豐郡大野原石川)

○私は處女の友が大好きです、初めて處女の友が發行せられてより只今までかゝさずいつも／＼面白く拜見いたしつゝ居ります。私の本箱の中へだん／＼とつみかされてゆく度ごとに御誌の日にまして發展いたし記事の爲になる面白いことばかりにてほんとに嬉しうございます、其に今度の二月號などどこからどこまでよんでしまひました。猿づくしの數へ歌は妹や弟に早速敎へました所もう覺えてしまひれても起きてゝも其の歌をうたはなければ日かくれない氣になつていつも歌つて居ります。諸先生御身大切に(群馬縣三四子)

○記者樣、私は寒い／＼雪國に住む處女の友の愛讀者の一人で御座います何にも知らぬ田舍の少女です、やう／＼來年の四月小學校を卒業致します、下手ですけれども作文など投書致して見たいと思ひますから惡い所は何卒御直し被下いまして御訓へ被下るやう御願ひ申上ます私の住む猪苗代は三百戸ばかりの少さな町で御座います、四方は皆山々で御座いまして其中北には磐梯山と云ふ大きな山がありて南には猪苗代と云ふ湖水もあります、そのほとり長濱と云ふ所には高松の宮殿下の御別邸も御座います處は大そう涼しう御座いますが今は北風荒く磐梯山の吹きおろしで實に身を切られるほど寒う御座います記者樣東京は大そう風が流行するそうですが御身御いとひ被下ましてます／＼此の處女の友を盛んに御ねがひ申ます、私もこれから懸命に作文を上手に作りドシ／＼投書致したう御座います土地の面白い事や風景繪ハガキや私の寫眞なども御送りしたり御報せ致したりしますから何卒よろしく(福島縣耶麼郡猪苗代町荒川はる)

○おなつかしい諸姉樣私は山陰の片田舍にすむ淋しい乙女ですの。此の度愛讀者となりました、お導き下さいませ多忙なる事務のかたはら投書も致す考へでございます「都にあこがれて」ほんとうに面白うございます(松江米田つる子)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『處女の友』誌友名簿（二）

香川縣三豐郡大野原村處女會	石川　モト
同　同　同　同	矢野　エン
同　同　同　同	福田　タカ
同　同　同　同	福田　ゼン
同　同　同　同	矢野トモエ
同　同　同　同	石川　エイ
同　同　同　同	長田　ハル
同　同　同　同	鈴木　シゲ
同　同　同　同	守實　ユキ
同　同　同　同	合田　ムラ
同　同　同　同	森宗　マサ
同　同　同　同	森　シゲ
同　同　同　同	篠原　コマ
同　同　同　同	野田カツエ
同　同　同　同	篠原イサミ
同　同　同　同	大山　靜江
福島縣耶麼郡奥川村	女　子　會
同　同　同小綱木	荒海　うん
同　同　同女子會	梨平支部
岩手縣氣仙郡竹駒村	脇坂　菊野
北海道石狩國紅葉山	山里　しん
島根縣簸川郡灘分村島村	濱村　秀野
和歌山縣伊都郡相ノ浦	岩根　松子
神奈川縣保土ヶ谷工場	四　さつき
同　同	張山　きゑ
同　同	工藤　クニ
同　國	小日向カツエ
同　同	中野　さよ
同　同	兒玉みのる
岐阜縣古川局區內小鷹利村	野田　綾
神奈川縣高座郡麻溝村當麻	松野　艮子
三重縣名賀郡比自岐村	甲野　久美
神奈川縣津久井郡與瀨町	山下えみ子
靜岡縣小笠郡原谷村細谷	松井　きく
島根縣簸川郡灘分村	土江　富子
佐賀縣佐賀郡西與賀村今津	深川ふみ子
島根縣西伯郡春日村大字一部	小原　繁子
廣島縣御調郡河內村德永	大河　ツル
同　同　同入江	胡田タマエ
香川縣善通寺町稻木	高畑フサエ
廣島縣御調郡宇津戶村	秦　ミツ子
山梨縣南都留郡盛里村神門尾崎	小俣　燈枝
福島縣河沼郡廣瀨村	齋藤たいの
北海道空知郡三笠山內幌內	荒木ミサチ
福島縣耶麼郡猪苗代町	荒川　峪子
高知縣香美郡在所村谷相	上野　崇子
福島縣信夫郡荒井村	阿部きく子
東京府下南葛飾郡吾嬬町請地	【田村百合子
島根縣松江市石橋町	米田都留子
東京市本所押上二三八	梶山喜美子
三重縣名賀郡比自岐村	辻　正子
北海道加內局區內字殖民地	酒井たまみ
岐阜縣武儀郡坂ノ東村君村	服部　きく
東京市本所區小名木川工場	黑坂　テル
高知縣香美郡片地村加茂	鍵山　淸水
福島縣耶麼郡磐瀨村沼倉	遠藤しん子
同　若松市大町一ノ町三	白井よし子
同　双葉郡請戶村中濱	西原たき子
群馬縣新田郡島之鄕村烏山	天笠　茂子
熊本縣芦北郡津奈木村名越	鵜野しゑ子
福島縣耶麼郡猪苗代町名古屋	室井くら子
同　大沼郡川路村小谷	須貝ミノイ
滋賀縣蒲生郡八幡小幡町中	田中　俊江
福井縣三方郡耳村麻生	高橋　なを
栃木縣足尾町	笠木曾世子
福島縣双葉郡新山町	笠原ふぢよ
廣島縣豐田郡田萬里村	伊藤　ハル
靜岡縣小笠郡倉眞村	原田ミサホ
東京市本所區中之鄕三田土ゴム會社	鹽田　フサ
福島縣大沼郡川路村	鈴木タマノ
靜岡縣小笠郡朝比奈村	水野　美勢
香川縣三豊郡大野原村	篠原キヨ子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

お房は何を考へてゐるのでせう

二月號の懸賞の當選發表文

三百五十八人の中左の方々がよく出來てゐました。

入賞　同じ人間でありながら

靜岡縣小笠郡朝比奈村上朝比奈

水野美勢子

（天野先生の「地方の婦人へ」を進上致します）

靜岡在のお房さんが、今野良にゆきがけに向ふを通るきれいなきものを着かざつた同い年位な娘さんをみつめ「あゝこんな炎天にわたしは苦勞するあゝ同じ人間でありながらつまらないいつそのと東京へゆこうか、華やかな都に……」と、とちうでぼんやりと考へ込んでゐるところと想像致します。

入賞　お房さんは私です

東京府下〇〇〇〇

〇〇〇〇子

（わざと名前は出しません）

わたくしか田舍に居る時田舍がいやになつて、都にあこがれてゐる所とそつくりでありました。さうしてとう〳〵家出してどんなに苦勞したかわかりません。皆さんやたらに都にあこがれてはいけません。わたしがよいお手本よ。

入賞　汽車の煙を見送つて

長野の縣東筑摩郡五常村西の宮

瀧澤やよ子

虚榮心に富んだお房さんが都戀しさのあこがれ心をいだきつゝ野良へゆく途中、今しも東京ゆきの汽車……

あゝ汽車が通る――あの汽車で……とぼんやりと考へ込みヂッとのころ煙を見送つてゐる所と思ひます。

入賞　都の女學生をみて

福島縣双葉郡浪江

新陽裁縫女學校内

お房さんは向ふを通る都の女學生をみて自分はこの樣な姿をして毎日野良に出て働いてゐるそれなのに、都の人は皆あの樣な立派な着物を着、きれいにお化粧をして、たのしく面白く遊んでゐる、自分も都にいつて、あの樣になりさうして、田舍に歸つてお友達にみせびらかしてあるきたいと思つてゐる所であります。

（評）　だからあなたの學校はさうなつてはいけませんよ。

みんなよく當つて居りました。甲乙はつけられませんでした。次の方々のは入賞の分に劣らないよい出來でゐりました。

荒川はる子（福島縣猪苗代町）宮町千代（保土ヶ谷工場寄宿舍）鈴木たまの（福島縣大沼郡川路村）大友みどり（府下大島町五丁目小名木川工場）增田ふさ子（東京本所業平町三田土ゴム會社）梶山きみ子（本所押上町二三八）伊藤ハルミ（福島縣豐田郡田萬里村）笠原ふぢ子（福島縣双葉縣新山町）笠木曾世子（栃木縣足尾町）原田ミサホ（靜岡縣小笠郡倉眞村眞砂）多久和ツヱ（島根縣簸川郡灘分村田原しじ子（滋賀縣蒲生郡市邊村）山際くにゑ（三重縣阿藝郡飯野村）川上富枝（香川縣三豐郡大野原村）金子ふで（神奈川縣高座郡麻溝村）鈴木ヤス（東京府下小名木川工場）荒木ミサナ（北海道三笠山村幌內炭山）田村百合子（東京府下吾嬬町請地二〇）〔菊地ミユ（本所押上工場）河原崎なか（靜岡縣小笠郡朝比朝村）土沼たまよ（福島縣耶麻郡猪苗代町）藤松さく（長崎縣東筑摩郡五常村）〇東京府下大島町小名木川工場　黑政照　佐賀縣佐賀郡西與賀村　深川ふみ〇島根縣簸川郡灘分村土江富子　廣島縣御調郡河內村德永　大河ツル、胡田タマヱ〇香川縣善通寺町稻木　高畑フサヱ〇廣島縣御調郡字津戸村桒ミツ子〇福島縣安達郡澁川村菅野好子〇岩手縣氣仙郡竹駒村脇坂菊野〇山梨縣南都留郡盛岡村　小俣澄枝〇島根縣簸川郡灘分村　山根ふさの〇靜岡縣小笠郡原谷村　松井きく〇神奈川縣保土ヶ谷工場　張山きゑ〇東京市本所區太平町白木その　熊本縣葦北郡津奈木村　岩城鶴野

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

懸賞處女文藝募集

第一種

作文 {田舍の友へ / 町の友へ / 工場の友へ}

和歌（題隨意一人三首）

俳句（題隨意一人三句）

考へ物（下の題を見よ）

習字（半紙一枚六字）

第二種

處女會の寫眞

田園生活の感想

有利なる副業内職

地方篤志婦人の事蹟

田舍より見たる都會

第三種

處女倶樂部（はがき一人一通）

衛生問答（一人一問）

處世問答（一人一問）

○私の家

神奈川縣津久井郡與瀨町　山下えみ

私の兄弟は十人です、男が五人女が五人でいま宅に居るのは四人です、他の兄樣や姉樣は皆よそへ行つて居ます、正月になるとみんなお二人連れで小供をつれて來ますからそれはにぎやかです。母樣のお心づくしのお料理を大ぜいそろつていたゞくのはことにおいしう御座います、それから大きなゐろりで家中暖まりながらいろ〳〵なお話をするのですほんとに樂しう御座います。今にこの家族は幾人になることでせうそんなこと考へるといつまでも父母樣の無事をお祈りいたします。

（評）平和なお家ですこと

○叔母の追分歌

福島縣猪苗代町　荒川はる子

田園生活などゝ一口に申しますと大そうやさしいやうで御座いますが、手に（クワ）（カマ）をにぎり、年中あせだらけになつて居りますと、一寸いやになつてしまひますが、又面白う御座います、追々暖かになつて、青葉が出、黄色い菜の花に蝶まひ、養蠶などが盛りになる頃、桑つみの少女、姉さんかぶりに、赤のたすきそこゝからはやさしい歌の音も聞えます、私なども太陽西山にぼつする頃やうやう桑つみも終ひて野モヤのたゞやう小川のほとり叔母さんから習つた追分歌ひながら家路に着くがほんとうに樂しう御座います。

（評）その追分歌がきゝたい

○二月號考へ物の答

題　蛙の虫を食ふ魚はなんといふ魚でせう

答は澤山ありました、なまづ、へび、かに、ぶぐ、ゆはな、さけなどでしたが、これは鮭といふのが正しい答です、ほんたうに蛙を食ふことでなく其の蟲を食ふのはさありますから蟲の代りに魚の字をいれるのですから鮭といふ字になりますくじびきで左の方々に賞品をあげます。

○原田こすみ（兵庫縣大芋村市野々）
○小原しげ子（鳥取縣西伯郡春日村一部）
○鍵山清水（高知縣香美郡片地村加茂）
○鈴木たき（靜岡縣小笠郡西山口村）
○天笠しげ子（群馬縣新田郡鳥之郷村）
○笠木曾世子（栃木縣足尾町）
○山根ふさの（島根縣簸川郡灘分村）
○遠藤しん子（福島縣耶麿郡猪苗町）
○田中俊江（滋賀縣蒲生郡八幡小幡町）
○横澤よれ（群馬縣勢多郡大胡町）
○鵜野しゑ子（熊本縣芦北郡津奈木村）
○日野ミサヲ（神奈川保土ヶ谷工場内）
○伊在多津子（長野縣東筑摩郡五常村）
○岩根信子（紀伊高野村相ノ浦）
○白井よし子（福島縣若松市大町一ノ町）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女會だより

○岐阜縣武儀郡坂東村處女會便り

（柴田幹事報）

創　立　大正六年二月十一日
目　的　婦德を養成して良妻賢母の素地を作る
會長其他の役員（村の名望家）林嘉右衛門副會長村長島田敬三小學校教員）
會　員　正會員百〇七名、内出稼六十四名
　贊助會員十二名　名譽會員二十名
基本金　金四拾貳圓也、村内有志の寄附金遂年增加の見込み
目的遂行のための事業
一　每年一回母校に修養總會を開き講話をきゝ會員のお話及決議等をなす
　大正九年度は一月十二日の答
二　每年一回短期女子講習會を開く
　第一回大正八年一月　講習科目　女子作文、簡易禮儀作法、家事經濟、小切物の利用
　講師は本會役員
　第二回大正九年一月の答　講習科目　作法、料理、處女訓話、裁縫講話、講師同上
三　每年各支部に於て二回以上修養會を開く
　此の際本部より役員出張して講話を行ふ
四　會員中結婚するのには記念として鏡を送る、これ破鏡の悲を見ざらしめんがためなり
五　大正七年度に於て出征軍人及家族の慰問を行へり
　慰問狀發送家事の手傳ひ（裁縫稻こき）「手製品の贈與」
六　補習學校出席を會員の義務とし開校中は在宅會員全部出席す大正八年度の出席步合九一、二五、
七　慈善事業として罹災者及貧困者に同情をなす
　家事の手傳ひ及手藝品の贈與（足袋前等）
　內特筆大書すべきは小川支部會員長尾すゑのが大正六年處女會創立の時より小遣錢を貯へおき大正八年二月貧困兒童に金二圓五十錢を學用品代として寄附したる事なり金員の多少はしばらく措き心のうつくしきよ
八　雜誌の購讀
　處友之友と我が家とを選定雜誌と定め購讀しつゝあり
　ことに處女の友は本會員の好伴侶なれば一層購讀を奬勵する豫定なり
九　印刷物の配布
　イ　會報年二回會員の修養親善に資するものにて內容としては訓話、講話、會員のお話、作文、和歌、通信事項等なり、第四號まで發行せしが中央部の指導に依り善良の域に進みつゝあり
　ロ　講習會講話要項の配布
　ハ　其他すでに配布したるもの（本會制定處女いろは敎訓）
　　（慰斗水引のかけ方等）
　以上の印刷物は全部謄寫ずりとし役員の手にて行ひ刷

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

に表紙を配布しおき編綴に便したり

十　「工女は孝女」主義貫徹のため工場との聯絡

會員の六割は工女なれば工場との聯絡を計るため工場主及工女係との通信を行ひ募集員は必ず本會を訪ふに至れり

十一　勤儉思想養成のため貯金組合を設けて貯金を奬勵しつゝあり

十二　會員調査のため會員名簿を備ふ

十三　大正九年度豫定事業

イ　家庭副業組合を設置して在宅會員に副業を奬勵す

ロ　工女組合を設けて工女の便利を計る

ハ　工場の視察

十四　最後の理想

本會に於て結婚の媒介をするに至らんとす

經　費　村費補助金(大正八年度金五圓)及有志の寄附金を以て充つ

附　記　會員相互に誡めて本會の趣旨を自覺し村民處女の啓發指導は目下の急務なるの必要を感じたれば本會の前途はすこぶる有望となりこゝに中央部の指導に依り愈々發展の域に向へり

○見　學　旅　行

鳥取縣西伯郡高麗處女會記錄係　大　場　政　子(報)

△朝四時迄に起きて、空模樣はどうかと、表に出て見ると、海を隔てゝ帶のやうに長い島根半島の山々はホンノリと薄紫色の霞につゝまれ、軟い草の葉末には春の夜の名殘りの玉露が、ヤット今地平線をはなれたばかりの朝日の光に、金色に銀色に輝き、野も山も青々として、空もスッキリ澄り渡り、こゝに我等が宿望であつた見學旅行に、相應はしいよい天氣であつた

△定刻前に學校に集り、中島、森本兩本會役員御引率、西古、森田兩婦人會役員御附添のもとに、會員三十二名打ち揃つて、午前九時半に出發した

△學校卒業以來始めての團體旅行、殊に御互に親しき友垣の一行とて、共に今日の樂しさ嬉しさなど語り合ひつゝ、淀江町を過ぎ大和村役場に行つた、こゝにて井上村長樣から、同村婦人會の内容につき、色々お話を聞き、寫眞など見せてもらひ、茶菓の御饗應を受けた

△それより長い日野橋を渡り、車尾村を通り、午前十一時、岡山專賣支局米子出張所に着いた。所員森田樣始め二三の御方々の御案内で、順次巡覽した、倉庫から運び出された煙草原料が、幾多の機械と多數の男女工の手を經るまゝに、間もなく立派な製品となり包裝さるゝまでの各種分業的の作業について熟練せる職工達の指先の働きの微妙さと、眞に一心不亂傍見もならぬ仕事ぶりとには、非常の感興と多大の教訓とを與へられた。

△出でゝ勝田神社に參拜し、記念の撮影をなし、それより米子高等女學校に行きた。諸先生の御深切なる御もてなしに、作法教室で晝食をすまし小憩後理化學教室に導かれ、暗室中、嶄新な各種電氣機の御實驗など見せていたゞき、壯麗なる講堂で、二生徒連彈のピアノを聞いた。ピアノは我等田舍ものには始めてゞその音調の面白さには、一同恍惚として、暫時はコゝを去りかねた。

△校内各教室を巡り、出でゝ坂口製糸場に至り、四百の女工の熱心なると設備の廣大さに驚いた。(以下略)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

編輯だより

○「春もや丶けきと丶のふ月と梅」一日ましに春めいて來ます。此時に際し皆樣の益々御壯健ならんことを祈ります。ひなまつりには何か催しでもありましたか。お知らせ下さい。

○群馬縣北甘樂郡丹生村處女會は去る紀元節に發會式をあげました。誠に喜ばしくあります。篤志家岡部榮信樣も大へん骨折下すつたさうです。田中校長からも御たよりがありました。

○大分縣西國東郡高田町處女會は紀元節に優良處女會として知事樣から表彰されました。誠にお目度いことでございます。

○青年會について處女會が問題となつて來ました。國民新聞では青年會と處女會との連絡について青年處女から意見を募つてゐます。皆樣よ、これからは、婦人の世の中です。清くけだかいのぞみをもつて進んで下さい。

○天野理事の『處女會の設置と事業』六十錢と申す書物は神田南神保町二番地の白水社で發行してゐますが、處女會の爲には、この上もないよい書物であります。處女の友の讀者には送料ともに四十錢でさしあげるさうです。當同理事の『地方の婦人』と申す書物は、神田南神保町三番地日新閣から近日發行致します。口語體で面白くなつかしくかいてあります。是非ごらん下さい。

○天野理事は去る二十一日に出發し群馬縣新田郡の鳥之鄉村婦人會にゆかれました。鳥の鄉婦人會員は、去年東京見學に來たことがあります。一晩とまつて親しく處女の方々にも會つて歸られました。

○處女の友値上

「處女の友」はほかの雜誌が値上げしましたが皆樣の爲に値上げしずにゐましたが、印刷代があまり高くなりましたので致し方なく十八錢に致しますどうぞそのわけを御くみ取り下さいませ。(君子)

處女の友改正定價表

每月一回一日發行

定價

	定價	郵税	合計
一部	拾八錢	五厘	拾八錢五厘
半年分	壹圓八錢	不要	壹圓八錢
一年分	貳圓	不要	貳圓

廣告料

	特別面	普通面
一頁	貳拾五圓	拾五圓
半頁		九圓

注意

◎御註文は總て前金の事、前金盡きたる節は封紙に「前金切」さ捺印して通知に代ふ◎御送金は振替貯金が最も便利なり◎郵劵代用は一割增のこさ◎外國行は郵税實費を申受く

大正八年二月二十八日印刷納本
大正九年三月一日發行

東京市本鄉區元町二ノ六六
發行人 印刷人 田所楠猪

編輯人 天野藤男

東京市麴町區紀尾井町三番地
處女會中央部

東京市京橋區弓町十二、三地
印刷所 千代田印刷株式會社
東京市本鄉區元町二ノ六六

處女の友發行所
電話小石川三一七四番
振替東京六一九〇番

大賣捌 東京堂、東海堂、北隆館、良明堂、至誠堂、上田屋、其他

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

○御註文の節は處女の友の廣告に據る旨御書添へを乞ふ

青年圖書

大久保四洲著

青年訓話 軍神乃木

著者の麗筆に依りて將軍の面目書中に躍出す

四六版三五〇頁
定價四拾錢
＝送料四錢＝

青年團員手牒

青年團員必携の信用狀△總クロース和紙堅牢無比△青年團中央部編纂
定價拾錢＝送料三部迄貳錢

帝國青年の歌

豪壯の歌勇快の曲＝△青年團中央部選△島崎東京音樂學校教授作曲
定價五錢＝送料九部迄貳錢

青年團體操

器具不用且場所を要せず實行簡易陸軍戸山學校選青年團中央部編纂
定價五錢＝送料四部迄貳錢

緬羊の飼ひ方

青年團中央部農業主任和田穆新著平明懇切總振假名付袖珍形頗美本
定價六拾五錢＝送料四錢

青年團指導

青年團改善指導の標準書△青年團中央部編纂△菊判三百八十有餘頁
定價壹圓參拾錢＝送料拾貳錢

趣味讀本 通俗文學

文部省普通學務局玉井廣平先生著青年の娛樂用課外讀本として好適
定價七拾五錢＝送料六錢

地方青年の教養

内務省監察官守屋榮夫先生著△青年團員教養に關する新研究の發表
定價壹圓參拾錢＝送料拾貳錢

東京市赤坂區溜池町三十一番地
帝國青年發行所
電話芝六二三三番
振替口座東京二一一六八番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

内務書記官 田子一民先生著

米國の禁酒戰

價參拾錢 送料四錢

世界の驚異たる全米國の禁酒法案通過は現代に於ける最も注目すべき社會運動たり著者曩に歐米を巡遊し親しく米國に於ける禁酒運動の由來を其沿革を究めし感慨禁ずる能はざるものあり、歸來筆を呵して此一書を成せり、時歲末年始に際し、飲酒の習俗最も熾んなるの際、敢て本書を江湖に推薦す。

井口丑二先生著書

報德處世 修養新話

【再版】價七拾錢 送料六錢

本書は著者の別著「報德淵源」に論述せる二宮翁の哲學より演繹して、之を處世修養上に活用するの方法を、極めて平易通俗に說述せるものなれば、何人も本書を讀めば、翁の敎義の眞髓を體得し、處世修養上の好指針たるものあらん。

二宮翁金言集

【七版】價二十五錢 送料四錢

二宮翁大敎訓の精髓は收めて此の書中に在り。以て修養の指針となすべく座右の銘となすべきものあらん。

山崎延吉先生著

戰後準備叢書 第貳編

婦人の覺醒

增補五版 價二十五錢 送料二錢

内容一斑

■女の一心■公私二諦(公方面。私方面)■婦人の三役(家政。育兒。趣味)■婦人の四德(婦容。婦言。婦德。婦行)■婦人の五惡(附宗敎の必要)■女の六大事(自覺。修業(學)。就職。結婚。母務。姑勤)■婦女に對する七大要求(研究。常識の涵養。能率の增進。體育。趣味の養成。社交。經濟的なる事)

附表 女房の善惡競

發行所 東京市赤坂區溜池町三十一 振替口座東京九七〇〇番 中央報德會

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

お顔も春めく

陽氣な節のお化粧には

先づ何より先にホーカー液でお肌を整へておき、又化粧下には又之をムラのない様に萬遍なくお塗けになればば白粉も思ふ様にノリます

家庭化粧料

ホーカー液(えき)

朝夕の一滴は
萬倍の美を現はす

小	廿五錢
中	五十錢
大	一圓

ホーカー化粧品本舗
東京神田和泉橋
堀越嘉太郎商店

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

大正七年二月二十五日第三種郵便物認可
大正九年二月二十八日印刷納本
大正九年三月一日發行（毎月一回一日發行）

一部定價　金十八錢

處女會中央部

東京市本郷區元町二ノ六六
處女之友發行所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN